

313
773



始



特 229
267



友納友次郎著

讀本の體系

内容編

東京 明治圖書株式會社



序

教授方法の研究と教材観の確立とは二元的に對立するものではありません。教授方法の研究は教材観の確立を意味し、教材観の確立は教授方法の研究を意味してゐます。從來此の密接不離の關係にあつたものを全然別個のものとして、教材は教材、方法は方法として研究してゐた爲に、幾多の破綻を來たし、折角の研究も空中樓閣を描くが如き不徹底なものと化し去つたのであります。

教材を離れて方法はありませぬ。教材の中に方法を見出した時に、眞に教法の意義があります。法を法として教材から引離して考へますと、其の法は單なる方法となつて何等の生命も無い死物となつてしまひます。

本書は國語教育者の爲に讀本の體系を明かにして、教法の基調たるべき教材

觀の確立に資したいといふ目的の下に、現行の國語讀本に就いて其の成立から組織體裁の一般を説明したもので、いはゞ編纂趣意書を具體化したやうなものなのであります。

文部省から出た編纂趣意書は、頗る簡單で、折角の趣意書も殆んど其の用をなさないのは、教授者の均しく遺憾とするところでありました。本書はそれ等の缺陷を補ひ、現行讀本の内容を縦横に解剖整理して、讀本使用者をして向ふところを過らざらしめんとするの用意に出でたものであります。

本書の内容は先づ第一篇に於て編纂當時の事情から、其の後の經過の一般を概説し、次いで各論に入り、第二篇には讀本の形態に就いて言語文字文章の各項に亘つて詳説し、第三篇には讀本の内容に就いて教材の選擇排列分類から、各卷各課の教材配置の一般に至るまで、紙面を惜まず細説詳論し、第四編には挿畫に就いて其の畫風構圖の一般を解説してゐます。各篇を通じて章を分つこ

と數十、節を分つこと百餘、其間アクセント、漢字、送假名、假名遣、分別書方など、凡そ讀本に關係ある各種の訓令示達は悉く其の正文を挙げ、讀本使用者の指鍼たらしめんことを期しました。殊に大正八年七月、文部省普通學務局の名によつて發表された漢字整理案の如きは、讀本編纂に最も密接な關係ある文書で、讀本使用の文字は悉く該案を規範としてゐますので、特に凸版コロタイプを用ひて原案其の儘を編寫し、彼是對照 便宜を圖りました。

其の他常用漢字といひ、假名遣改正案といひ、苟くも讀本に關係あるものは悉く網羅して、讀本使用者の參案に資することにいたしました。

尙各卷各課の教材内容を指示したことや 挿畫の一々に就いて畫風や構圖の大體を解説したことや、卷末の教材の出所に於て主な原據を一々正本によつて摘録したが如き、何れも編纂趣意書の缺を補ひ、讀本使用者の參考に資せんとする著者の微衷の致すところであります。

匱大一千數百頁、幸に讀本體系の名を辱かしめざるを得ば著者の榮とする所

序
であります。

終に臨んで衆議院速記技手杉山直喜氏が、本書の爲に親しく速記の勞をとり、且つ原稿整理の一切を御負擔下さつたことを附記して感謝の意を表します。

昭和二年三月櫻の綻び初める頃

東京市外高田馬場の草廬に於いて

著 者 織

國語讀本の體系

— 現行讀本は斯うして出來てゐる —

目次

第一篇 總說……………一

編纂當時の事情……………三

編纂組織と其の推移……………七

編纂方針と編纂趣旨……………一五

第一篇 讀本の形態……………九五

讀本と言語……………九七

讀本編纂の規矩……………九七

普通の言語……………一〇一

目次

一

國語と漢語……………105
 口語と文語……………110
 國語の變遷進化……………111
 標準語法……………132
 語感とアクセント……………149
讀本と文字……………151
 國字問題……………151
 假名の世界と漢字の世界……………157
 假名の三様……………159
 片假名の提出……………161
 平假名の提出……………166
 漢字の制限……………174

漢字の整理……………179
 漢字要覽……………182
 漢字の提出……………189
 常用漢字……………188
 送り假名法……………196
 假名遣問題……………197
 分別書方……………188

第三篇 讀本の内容

讀本教材と其の内容……………167
 教材選擇の標準……………169
 讀本内容の意義……………173

國語讀本の内容……………六五二

國語讀本の特色……………六五二

教材の分類……………六六〇

教材の排列……………六七四

教材内容と其の展開……………六八五

卷一……………六八五

卷二……………六九九

卷三……………七〇七

卷四……………七二〇

卷五……………七三四

卷六……………七四八

卷七……………七五九

卷八……………七七〇

卷九……………七八二

卷十……………七九四

卷十一……………八〇六

卷十二……………八一九

教材の原據……………八三四

教材の出所……………八三四

原據の摘録……………八四三

第四篇 讀本の挿畫……………一〇七三

讀本と挿畫……………一〇七五

挿畫の改善……………一〇七五

國語讀本の挿畫……………一〇七八

挿畫の畫風と其の説明……………一〇八〇

卷一……………一〇八〇

卷二……………一〇八九

卷三……………一〇九七

卷四……………一一〇五

卷五……………一一一〇

卷六……………一一一六

卷七……………一一三三

卷八……………一一三八

卷九……………一一三一

卷十……………一一三七

卷十一……………一一四三

卷十二……………一一五一

國語讀本の體系 目次終り

第三篇 讀本の内容

讀本教材と其の内容

教材選擇の標準 讀本内容の意義

國語讀本の内容

國語讀本の特徴 教材の分類 教材の排列

教材内容と其の展開

卷一 卷二 卷三 卷四 卷五 卷六

卷七 卷八 卷九 卷十 卷十一 卷十二

教材の原據

教材の出所 原據の摘錄

讀本教材と其の内容

教材選擇の標準

讀本の編纂は課外讀物などの編纂とは趣を異にしてゐます。一冊の讀本を編纂するにも確乎とした據所がなければなりません。そこで先づ第一に遵奉しなければならぬのは法規で、編纂者は何を措いても此の法規の示す所に従はなければなりません。

現行の法規としては、先づ第一に小學校令の第一條に規定されてゐる小學校の本旨があります。

小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並ニ其ノ生活ニ必須ナル智識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス。

此の本旨に據つて各科の教授要旨なるものが生み出されてゐますが、國語科

讀本教材と其の内容

の要旨としては、

國語ハ普通ノ言語日常須知ノ文字及ヒ文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼ネテ智徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス。

と規定せられ、尙其の内容に就いては、

尋常小學ニ於テハ初ハ發音ヲ正シ假名ノ讀方書キ方綴リ方ヲ知ラシメ漸ク進ミテハ日常須知ノ文字及ヒ普通文ニ及ホシ又言語ヲ練習セシムヘシ。
高等小學ニ於テハ稍進ミタル程度ニ於テ日常須知ノ文字及ヒ普通文ノ讀方書キ方綴リ方ヲ授ケ又言語ヲ練習セシムヘシ。

と規定されて居るのであります。此の法令は讀本編纂に於て唯一の據所でありまして、編者は何を措いても此の規定の趣旨を違奉しなければならぬのであります。尙法規には特に組織體裁に就いて、

讀本ノ文章ハ平易ニシテ國語ノ標準トナリ且兒童ノ心情ヲ快潤純正ナラシムルモノナルヲ要シ其ノ材料ハ修身歴史地理理科其ノ他生活ニ必須ナル事

項ニ取り趣味ニ富ムモノタルヘシ。

と指示して讀本編纂に就いての一般方針を明示してゐます。つまり是等の内容に依つて小學校の本旨に示された目的を貫徹しようとするのであります。

現行讀本は大體此の方針に依つて編纂されてゐますが、もう少し碎いて説明致しますと、先づ第一に國民性の陶冶と云ふ事で、讀本は國民性の陶冶といふ大きな任務を脊負つてゐます。國語と國民性とは離すことの出来ない密接な關係を有してゐるのであります。國語の教育は一面から見ますと國民性の教育であるとも謂へませう。國民は其の國の國語に依つて眞に國民としての性格を陶冶されるのであります。民族と國語とは密接不離の關係を有してゐるのであります。民族性の陶冶に於ては其の民族が有する言語そのものに依つて民族固有の精神を陶冶しなければなりません。

國民には國民としての本性といふものが有り特質といふものが有ります。是は如何なる方法を用ひても取去ることの出来ないものであります。此の本性を

正しく巧く導いて行くのが即ち國語の教育なのであります。

言語が既に斯うした本質を有してゐるばかりでなく讀本の内容そのものに於ても亦此の種の教材を以て其の中堅としなければならぬのは法規の明示する所に依つても明かです。斯うして熱烈な愛國的精神を涵養し、國民として具備してゐなければならぬ品性の陶冶に資しなければなりません。ですから國民性を陶冶し愛國的精神を鼓吹するのは國語教育上の一大責務であるといふ事を忘れてはなりません。現行の讀本を通覽して見ますと、卷一から卷十二に至るまで此の精神の濃厚なことは、目錄を繰披けただけでも明かな事實であります。初學年に於て「桃太郎」や「大江山」を出した編者は、「浦島」を出し「羽衣」を出してゐます。上學年に至りましては、教材の目ぼしいものは殆ど是等の見地から選ばれたものだと言つても過言ではありません。

次に讀本は國是を示し國策に觸れてゐなければならぬと云ふ事です。編纂趣意書にも「國勢ノ現状世界ノ事情ニ通ゼシムベキモノ」とありますのは此の意に外なりません。アイヌの風俗や朝鮮の風俗などが削られて、南洋だよりや南米に關する教材が新に加はつた事なども此の方針に出たものと解しなければなりません。國民が科學的知識に缺けてゐて、發明創作の精神を缺如してゐるといふ事に對して、初學年に「水デツパウ」を出した編者は上學年に至つて「工柿右衛門」や「トマス・エヂソン」を出したが如き、是等の精神の現れと見なければなりません。

尙讀本は國民性を中心として現代文化を紹介する事に依つて現代文明に交渉せしめる所がなければなりません。國の文明は其の國固有の國民性を中心として、現代社會のあらゆる文明を同化し活用する所に意味があります。國語讀本にはこゝらの考から致しまして各種の方面から教材が選擇されてゐます。先づ我國固有の思想感情を紹介し我が國民性の陶冶に資してゐるのは言ふ迄もない事でありますが、尙又現代の文明を紹介して現代を理解させるといふ事にも多大の力を用ひてゐます。「私ノ村」「私どもの町」の興國的發展的氣分の涵養とい

ひ、「大工小屋」「大賣出し」「蠶」等の實業的氣分の鼓吹といひ、何れも此の考に出たもので、上學年に至つては「銀行」が出され「炭坑」が出され「開墾」が出され、「輸出入」が出され「捕鯨船」などが出されてゐるのも、「パナマ運河」や「上海」や「南米だより」などの教材が出されてゐるのも、皆此の精神の現れと見なければなりません。

言語や文字文章 選擇排列は總て言語學的の軌範に合致しなければならぬものでありまして、初學年に於ける「ハナ」「ハト」「マメ」「マス」「ミノ」「カサ」「カサカサ」から、「カラスガキマス」「スズメガキマス」「ウシガキマス」「ウマガキマス」に至るまで、總て斯うした語學的根據の上に立つてゐるのを見逃してはなりません。標準語の普及といひ、發音アクセントの教授といひ、方言訛音の矯正といひ、總てこゝらの判然した根據を有してゐなければならぬのは言ふまでもありません。上學年に進んではどんな教材がどんな文體に依つて課せられるかと云ふことなど、總て此の根據に基いて考究しなければならぬもので、先づ

崇敬體を出し、次いで常體に及ぼし、更に文語體に及ぼした編纂の方針などは、何れも此の見地から割出されたものなのであります。

次に讀本は藝術的の作品でなければならぬといふ事ではありますが、此の主張は最近あらゆる方面から力説鼓吹されてゐるのであります。或論者の如きは、讀本は文學でなければならぬとまで主張してゐます。現行讀本に於ても力めて此の精神を尊重して、文學的作品を取入れることに努力して居ることは讀本教材の分類を見ましても明かです。文學的教材と銘打つたものが、修身的教材や歴史的教材などよりもズツと高率を占めてゐるのを見ても其の間の消息が忖度されませうし、尙又其の他の教材に於ても、縦し教材は歴史的地理的理科的と銘が打たれてゐるにしても、其の書振は著しく文學的色彩に富んでゐて、一見文學的教材と看做しても差支ないやうな教材が尠くないのを見ましても、其の方針の那邊に在るかが窺はれませう。

次に讀本は讀本としての内容を具備してゐなければならぬと云ふ事です。

讀本は課外讀物とは異つてゐて、何遍も繰返して入念に取扱はなければならぬ性質のものでありますから、一遍讀んでそれで放りつばなしにするといふ様な性質のものではありません。近頃課外讀物の必要を鼓吹し、自修用の讀物として適當な出版物が可なり澤山提供されてゐますが、それらの讀物と讀本とは自から性質を異にしてゐることを看逃してはなりません。讀本は讀本として大きな任務を有つてゐるのであります。國語教育そのもの目的を達するだけの内容を有つてゐなければなりません。或一部の人は、讀本が固苦しいとか無味乾燥だとか云つて居ますが、それは讀本と課外讀物とを混同して居るところから起きた誤解でありまして、課外讀物は趣味本位でどこまでも面白く書けばそれで宜いのであります。併し讀本はそれだけでは満足されません。讀本は讀本として判然とした目的の下に編纂されてゐなければなりません。此の區別を混同致しますと往々にして色々な間違を惹起します。讀本は何處までも國語教育の目的を達成するだけの内容を有つたものでなければなりません。卷一を繰

つて見ても解りませう。「ハナ」を出し、「ハト」「マメ」「マス」を出し、「ミノ」「カサ」「カラカサ」を出し、「カラス」「スズメ」を出し、「ウシ」「ウマ」を出してゐます。其他「イヌ」を出し「ネコ」を出し、「サルカニ」を出し、「アメアガリ」を出し、「デンデンムシ」を出し、「ホタル」を出し、「ハス」を出し、「ヘチマ」を出してゐます。斯様に通讀して見ますと、自から編者の期して居るところも明瞭になつて参りませう。無論讀本なるが故に無味乾燥なもので宜しいと云ふ譯ではありません。併し斯うした目的を有してゐるのでありますから、さう面白いといふ事ばかりを要件にする譯には行かないのであります。一度讀み、二度讀み、三度讀みして倦きないだけの工夫がなければなりません。讀めば讀むほど新しい興味が起きて來る様に書かれてゐなければなりません。こゝら編者の苦心の存するところを忖度して、教材を生かして取扱ふ用意がなければなりません。

尙讀本は兒童の心理に合致してゐなければなりません。題材の選び方といひ、文章の程度や分量といひ、其の排列の仕方といひ、總て兒童心意の發達と合致

して、児童の學習に都合好き形に出来てゐなければなりません。最近教育の進歩に伴つて、児童自身が自發的に學習するといふことが教育の本義であると考えられる様になつて來ました。さうし、從來の教師本位の教育が児童本位の教育に變つて來ました。斯うした時代の讀本としては一層此の點に注意を拂つて、文字といひ、語句といひ、文章といひ、總て児童の學習に相應しく出来てゐなければなりません。文章内容に於ても其の通りで、児童の創造力の發達や觀察力の進歩や興味の場合などを考慮して、児童にシツクリと合つた内容が盛り込まなければなりません。卷一で先づ「ハナ」を出し、次いで「ハト」を出し、「マメ」を出し、「マス」を出し、「ミノ」を出し、「カサ」を出し、「カラカサ」を出してゐますが、是等は何れも児童の學習に相應しいやうに工夫されたもので、「ハナ」「ハト」「マメ」「マス」は頭韻を踏み、「ミノ」「カサ」「カラカサ」は頭韻と脚韻を踏んでゐるが如き、「カラスガキマス」「スズメガキマス」の脚韻連鎖を成してゐるが如き、一面に於ては新出文字を加減し、一面に於ては口調好き形で學ばせ

ようとした苦心に外なりません。其の他言葉に於ても、「キマス」を卷一の四頁に出し、「キマシタ」を同く十五頁に出し、「アリマス」を十六頁に出し、「アリマシタ」を四十六頁に出してゐるが如き、一々吟味して見ますと可なりの苦心が拂はれてゐるのであります。文章に於ても其の通りで、崇敬體で一通りの基礎を固め、次に常體を出し更に文語に及ぼしてゐるが如き、何れも是等の趣旨に外なりません。其の他挿畫といひ、文章内容といひ、一々吟味して見ますと、編者の苦心の存する所が大凡忖度されるであります。

次に讀本は季節と一致させる事に注意しなければなりません。春には春らしいもの、秋には秋らしいものを配し、其の時々の氣分を味はせ理解を容易にしなければなりません。歴史的教材の如き、二月頃のもの、五月頃のもの、五月に配してゐるが如き、これらの用意に出たものであります。尙一學期の終、二學期の終、三學期の終といったやうな事にも周到な注意が拂はれてゐますし、正月といひ、節句といひ、盆といひ、村祭といひ、それらの季

節に順應させてあります。柿の實の眞赤に熟してゐる時に「陶工柿右衛門」を出し、梅の蕾が綻びかける頃に「太宰府まうで」を出してゐるが如き、何れも此の用意に出たものなのであります。近頃學校に依つては多讀主義を主張し、一冊の讀本を一月足らずで讀ませてしまつたといふ話も聞きます。無論多讀させるといふことも意味のない事ではありませんが、折角こんな苦心されてゐる讀本をハベツ、幕無しに讀ませて、季節やなんかには些つとも注意しないといった亂暴な遣方は甚だ面白くないやうに思ひます。多讀させようと思ふならば、其の間々に適當な教材を補つて、やはり大體秋には秋、冬には冬といったやうに、季節に順應させるやうに工夫しなければなりません。

讀本は季節に順應させると共に、尙又他教科との連絡をも顧慮しなければなりません。下の學年では學科も至つて少いのでありますが、學年の進むに隨つて教材の数もだん／＼殖えて参ります。讀本はそれらと密接の關係を有たせ、歩調を揃へて進まなければなりません。さうして互に相助け相待つて教授の徹

底を圖らなければなりません。現行の讀本でも、こゝらの見地から教材の分類排列には餘程の苦心が拂はれてゐるのであります。修身で「よく學びよく遊べ」といつた教材が出されてゐれば、讀本では其の應用の形にして「目と耳と口」を出し「ハヤオキ」を出し、「親のいひつけを守れ」に對しては「お花」を出し、「元氣よくあれ」に對しては「ウンドウクワイ」を出し、「うそを言ふな」に對しては「はごろも」を出し、「兄弟なかよくせよ」に對しては、下駄の鼻緒をすけてやつた兄弟の韻文を出し、「祖先を尊べ」に「柿」、「工夫せよ」に「大工小屋」「水デツパウ」を配したが如き、歴史で言ひますと、一、二では童話傳説を取り、三、四になつて童話を去つて史譚に入つてゐます。五、六になると、他日歴史を學ぶ準備として、先づ神代から吉野朝までの教材を配し、七、八には吉野朝から現代までの教材を配し、卷九からは歴史と歩調を合せてそれ／＼の教材を配したが如き、一吟味して見ますと、編者の苦心のあるところが窺はれませう。

其の他教材の處置に就いても、從來の讀本では、將來の生活を對象にして主

として實科主義に據つてゐましたが、新しい讀本では、現在の生活を尊重して主として文科主義に據つてゐます。こゝらは現代思潮に順應したもので、是迄の教育が生活準備といつた思想に囚はれてゐたのに對して、眞の教育は生活發展に在りと考へたからであります。教育を生活準備と解しますと、あれも必要これも必要といつた鹽梅、將來の生活に必要なものは何でも取入れなければならなくなるのであります。しかしこれは非常な間違で、子供の教育は子供の生活その物でなければなりません。將來の生活は現在の生活その物の延長で、現在生活に堪へ得るだけの教育が行はれてゐましたら、つまりそれが立派な生活準備の教育となるのであります、新讀本はこゝらの見解から兒童本位に基調を置き、出来るだけ兒童の生活を尊重する事になつてゐます。こゝらは何れも時代の進運に伴つて讀本を教科の中心たらしめようとする用意に出たもので、法規の明文に準據すると共に時代の進運に適應せしめようと云ふのであります。

讀本内容の意義

讀本の教材は大體如上の如き標準に依つて選擇されるのであります。其の題材は人事自然のあらゆる方面に涉つてゐるのであります。随つて其の題材の質から眺めて見ますと、地理に屬するものもあれば歴史に屬するものもありません。或は理科、或は修身と、種々雑多であります。併しそれらは何れも讀本教育の目的の上から眺めて選擇されたもので、それに依つて史實を授けようとか理科的智識を賦與しようとかいつた意味合のものではありません。何處までも讀本独自の使命に基いたもので、それらの題材が其の場合に於ける讀本教育の目的に相應しいからであります。ですから讀本として採擇される教材は總て讀本として相應しい内容を有してゐなければなりません。つまり讀本内容です。この讀本内容が教材選擇に於ける唯一の據處でありまして、其の場合の讀本内容が地理に適應してゐる場合には地理から選ばれ、歴史に適應してゐる場合に

は歴史から採擇されます。修身から題材を求めるのが一番適當してゐると認められた場合には修身から選ばれ、理科が適當してゐる場合には理科から選ばれます。ですから地理といひ、歴史といひ、乃至修身といひ理科といひ、何れも讀本教育其の物から眺めましたら方便に過ぎないもので、其の題材によつて讀本教育の目的を達しようとするのであります。

讀本教材は斯様な考によつて選擇されたものでありますから、一つの題材に接した場合に於ても、それが縦し歴史のものでありませうが、又地理的のものでありませうが、先づ第一に其の教材が何を目的にしてゐるかといふ事を考察して見なければなりません。何を讀本内容としてゐるかといふ事、それが其の教材を見る場合に於ける唯一の着眼點なのであります。例へば理科から「動物ノ色ト形」といふ題材が選ばれたと致します。此の教材は動物の保護色や警戒色や擬態といつたやうなものを説明するといふ形に出來てゐますので、一見理科的智識を賦與するものゝ様にも考へられるのであります。併し一步踏込

んで吟味して見ますと、それが理科的智識を對象にしたものではないと云ふ事を發見するでありませう、一匹の心なき兎、私共が無心だと考へてゐる兎が、秋の末になつて草が枯れ木の葉が落ちて、さうして野山が一面に枯葉で覆はれる様になりますと、何時とはなしに其の兎の毛の色が枯葉の色に變ります。だん／＼冬が近づいて、雪がちら／＼降つて來て、野山が鹿子斑になりますと、其の兎の毛色は何時とはなしに鹿子斑になつて來ます。さうしてだん／＼冬の最中になつて野山が一面に雪に包まれる様になりますと兎の毛色は何時となしに變つて純白となります。たゞ事實を事實として其のまゝに眺めますと何の不思議もないのであります。深く内面に喰入つて考察しますと本當に不思議でなくなります。心なき一疋の兎でも斯様に自然の有様と順應しながら生きて居るのであります。何だか其處には私共の理知を超越した或大きなものが有つて、私共は總てそれらに左右されてゐるではなからうかといふ感じが起きて來ませう。一疋の蟻螂、或は木の葉に宿る雨蛙、それをたゞ蟻螂と見、雨蛙と

見ましたら何の不思議も起きないのでありますが、能く注意して考察して見ますと、其處に何等か大きな暗示の含まれてゐることを意識しないではゐられなくなるのであります。つまりこゝらが此の教材の讀本内容で、其の不可思議な宇宙の大意とでも云つたやうなものをそれとなく感得せしめようといふのか此の教材の狙ひどころなのであります。

卷十一の巻頭に出された「太陽」なども、ずつと通讀して見ますと、天文學的の智識を對象にした理科教材のやうにも見えませんが、併し理科ではありません太陽の大きさ、太陽の熱、太陽の光、さうしたものを知らせるだけの事でしたら無論理科と何等變りはないのでありますが、能く吟味して見ますと、此の教材の擇ばれた趣旨が奈邊に在るかを發見することが出来ませう。その想像することも出来ない様な大きさや熱や光は、天體の廣大さを想像させるための方便で、先づ太陽によつて其の偉大さを想像させ然る後「此の大きな太陽も夜の空に銀の砂をまいたやうに見える小さな星の一つと同じものだ」といふに至つて

初めて此の教材の狙ひ所が明瞭して來るでありませう。つまり、こゝらが此の教材の讀本内容で、此の宇宙觀と申しませうか、自然觀と申しませうか、斯うした心の芽生えを培ひたいといふのが此の教材の選ばれた趣旨なのであります。地理から楊子江やナイヤガラ瀑布や洞庭湖が選ばれてゐるのも矢張同様で、之に依つて楊子江やナイヤガラ瀑布や洞庭湖を紹介しようといふのではありませぬ。楊子江の大は支那の大を物語り、ナイヤガラ瀑布の壯觀はアメリカの壯大な天地を想像させ、洞庭湖の湖相は支那其の物を紹介するに相應しいからであります。支那第一の大河楊子江が蜿蜒一千三百餘里、其の上流から流す筏が、土を置いて野菜を作り、小屋を建て、豚や鶏を飼育しながら悠々一年有餘の長い月日を費して下流に下るといつたあたり、我が島國として想像することも出来ない所で、こゝら支那の偉大さを物語るものでなくて何でせう。殊に茫茫漠漠として大海の如き洞庭湖が、秋から冬にかけては全く其の形を失し、まるで小やかな小澤と化してしまふといつた邊り、支那の國民性其の物を象徴して餘

あるものではありませんか。大なるが如くして小に、小なるが如くして大に、有るが如くして無く、無きが如くして有り。其の得體の知れないところは支那の國民性そつくらです。

理科的といひ、地理的といひ、乃至歴史的といひ、修身的といひ、總てさうで、教材は地理から選ばれてゐても又理科から選ばれてゐても、それ等はそれぞれ其の場合に於ける讀本内容を有してゐるのであります。編纂趣意書にも特にこゝらの消息を明かにする爲に「的」といふ言葉を使つて、歴史から選ばれたものには歴史的、地理から選ばれたものには地理的と銘を打つて、其の場合に於けるそれらの立場を明かにしてゐるのであります。「的」といふ言葉は頗る要領を得ない言葉ですが、此の場合に於ては先づ「やうな」といつた位の意味に解釋したらシツカリ、當筈まりませう。つまり歴史的教材といふのは「歴史のやうな教材」と云ふのであります。歴史のやうな形をしてゐるが歴史ではない。讀本教材だと云ふのであります。

編者が一篇の題材を讀本化する場合の態度は大體これで説明し盡したやうですが、更に其の間の用意に就いて一言しますと、修身的教材や歴史的教材などに於て、事實資料の據るべきものある場合には、無論其の事實を尊重して其の儘それを讀本化するのであります。例へば「白ウサギ」「熊襲征伐」「扇のまと」「千早城」「弟橘媛」などの如きは、古事記や平家物語や太平記などの原文を其のまま翻譯した形に出來てゐますが、これは史實其の儘で立派に讀本内容を充たすことが出來た場合であります。併し其の儘ではどうしても讀本内容を現すことが出來ない場合には、更にそれを讀本化して、事實に基いて幾分の創作を加へなければならなくなります。例へば「をののたうふう」「萬じゆの姫」「加藤清正」「五代の苦心」「勝安房と西郷隆盛」の如きが其れで、それらは何れも史實を基にして其の間幾分の創作を加へてあります。これは史實その儘では何うしても其の場合に於ける讀本内容を完全に充たすことが出來ないので、特に創作を加へて讀本化せられてゐるのであります。「をののたうふう」では傳來的の俗傳や淨

瑠璃の青柳硯などに據つて特にあゝした場面を創作し、「五代の苦心」では佐藤信淵傳を種本にして、四代信季の臨終の場面を構想し、「勝安房と西郷隆盛」では氷川清話や海舟傳などに據つて、薩摩屋敷に於ける兩雄會見の場面を創作したが如き、みんな其の間の消息を物語つてゐるのであります。

しかし教材によつては事實の取るべきものもなく適切な資料として據るべきものを見出すことが出来ない場合があります。そんな場合には已むを得ず全然編者の手に依つて創作しなければならぬ事になるのであります。所謂假作の場合で、全然新しい場面を構想して、それで讀本内容を満たさうと云ふのであります。例へば「オクスリ」「ユキダルマ」「カゲエ」「五一ぢいさん」「ささ舟」「一本杉」「大工小屋」「すすはき」「かるた取」「川水池」「きのこ取」「傘松」「航海の話」「老社長」「星の話」「石安工場」「のぶ子さんの家」「遠泳」「電氣の世の中」などが其れで、下學年では特に斯うした場合が尠くないのであります。此の假作の必要が起きて來るといふのが、取りも直さず讀本内容そのものゝ意義を説明してゐるので

ありまして、讀本が讀本独自の使命を有してゐることを證明して餘あるものと言へませう。

國語讀本の内容

國語讀本の特色

國語讀本は大體以上の如き趣旨目的の下に編纂されたものでありますが、其の特色の主なるものは、趣意書の緒言に、

分量

從來ノ第一種讀本ニ比シテハ、低學年用ニ於テ約三割ヲ増加シ、高學年用ニハ一割乃至二割ヲ増加ス。

文字

假名並ビニ漢字ノ提出時期及ビ漢字ノ數ニ關シテハ、略從來ノ第一種讀本ニ據ル。但シ漢字ノ配當ハ、第一種讀本ニ比シテ、高學年用ニ稍減少シ、低學年用ニ増加ス。

教材

教材ノ選擇ニ就キテハ、兒童ノ日常生活ニ觸レタルモノ、田園趣味ヲ養成スベキモノ、理科・實業・經濟及ビ公民ノ心得ニ關スルモノ、國勢ノ現狀、世界ノ事情ニ通ゼシムベキモノ等ノ材料ヲ從來ノ第一種讀本ヨリモ稍増加ス。練習文ヲ適宜各卷中ニ挿入ス。

挿畫

從來ノ第一種讀本ノ畫風ノ外ニ、洋畫風ノモノ及ビ略筆畫ヲモ加ヘ、且成ルベク兒童ノ性情ニ適合セシメ、又地方ノ生活狀態ヲ描寫ス。とあるので其の一般が窺はれませう。

これらの諸項の中で特に注意すべきものは教材の選擇に關する用意で、「兒童ノ日常生活ニ觸レタルモノ、田園趣味ヲ養成スベキモノ、理科・實業・經濟及ビ公民ノ心得ニ關スルモノ、國勢ノ現狀、世界ノ事情ニ通ゼシムベキモノ等ノ材料ヲ從來ノ第一種讀本ヨリモ稍増加ス」とあり、「練習文ヲ適宜各卷中ニ挿入ス」

とあるのは國語讀本の特色として特筆大書すべき所でありませう。そこで先づ第一に日常生活といふ事でありませう。此の生活なる意義は嚴密に研究しましたら面倒な問題なのですが、此處では唯あつさりとして、子供に相應しい教材といつた位の考で取扱はれてゐるのであります。從來の讀本があまり大人本位で、將來の生活に必要なとか他日の準備だとかいつた思想に囚はれてゐました爲に著しく子供の生活と懸離れてゐました。新讀本はこゝらの缺陷に着目して、出来るだけ兒童本位に基調を置いて、兒童の生活に直面した教材を出來るだけ多量に取入れるといふ事になつてゐるのであります。これは確に新讀本の特色として推賞すべきもので、卷一から卷十二に至るまで、取材の上にも記述の上にも所謂子供らしい題材や書振が著しく目だつて見えるのであります。「ミヨチャン」「カゲエ」「水デッパウ」「虫ぼし」「お祭」「すすはき」「かるた取」「おぢさん」のうち「山がら」「ヒナマツリ」「ささ舟」「中村君」「きのこ取」「潮干狩」「犬ころ」「餅つき」「養雞」「若葉の山道」「植林」「いもほり」「初秋」「遠泳」「ガラス工場」など、

拾ひ上げて見ますと其の例が尠くありません。これらの題材の中で「ミヨチャン」「水デッパウ」「いもほり」「遠泳」の如き、直接自己生活を寫したのもありますし、「すすはき」「ささ舟」「養雞」の如き、第三者の位置から兒童の生活を寫したものもあります。尙又「山びこ」「磁石」「炭焼」「税」「選挙ノ日」の如きは實業的教材や理科的教材を兒童化して取扱つたものゝ適例でありませう。兎に角斯うして兒童の生活その物に基調を置き、何處までも兒童本位に立脚してゐる所に新讀本の新讀本たる特色があるのであります。

次は田園趣味の養成ですが、此の點も確に新讀本の特色の一つとなつてゐます。從來の讀本が著しく都會中心になつてゐて、田園趣味の鼓吹を没却してゐたのに對して、新讀本では出来るだけ題材を田園に取り、田園趣味の鼓吹に力を用ひてゐるのは看逃し難いところでありませう。最近商工業の發達は所謂産業革命を招來し、人々は争つて都會に集中し、田園は爲に荒廢を來しつつある現狀に對して、國語讀本が敢然起つて田園趣味の鼓吹に力を用ひてゐるのは、

眞に時宜を得たものとして推賞に値すべきものでありませう。

理科實業に關する教材を増加したといふ事も、經濟及び公民の心得に關するものを重視したといふ事も、やはり時代の要求に立脚したもので、當時我が國民が著しく科學的智識に缺けてゐて、世界の進歩に後れてゐたといふ事や、立憲治下に在りながら法制經濟的思想を缺如してゐたといふ事などが其の因を成してゐるのであります。國語讀本の編纂に着手したのは丁度歐洲戰亂の當時で、我が國勢は非常に勃興し一躍世界強國の一に算へられるに至つたのであります。我が國は主として我國が極東に偏在して戰局に遠ざかつてゐたのと、我が國が武力が他國に優越してゐたといふ事に起因してゐたのであります。國民の實質が其處まで到達してゐたといふ譯には行かなかつたのであります。随つて我が國民は一面に於て此の聲價を維持すると共に、其の實質に於ても世界の列強に伍して愧づかしくないだけの訓練を必要とするといふ痛切な要求に満たされてゐたのであります。科學的智識の必要が叫ばれたのも法制經濟的思想の大

切な事を自覺したのも之が爲なのであります。國語讀本は是等の要求に應じて生れたもので、此の時代思潮に順應し、一面には科學的智識を涵養し實業的精神を鼓吹して個人の生活を充實せしめると共に、一面には法制經濟的思想を養ひ、立憲治下の國民として愧づかしからぬ性格を陶冶しようと試みたのは當然の事なのであります。

次に國勢の現状、世界の事情に通ぜしむると云ふ事ではありますが、是もやはり時代の要求から生れたもので、總てが世界的となり世界を相手にして活動しなければならぬ時運に遭遇したのでありますから、今までのやうな箱庭式の考ではいかなくなつたのであります。國勢の伸張に伴れて國民各自の生活が總て世界的になつて、日常生活といはず、商工業といはず、世界を相手にし世界を舞臺にしなければならなくなつたのであります。日本に住むと同時に世界に住んでゐるといふ考が必要となつて來たのであります。子供の生活に就いて見ましても、餘程其の内容が擴大されてゐて、萬事が世界的になつてゐると云

ふことは、彼等が口にし筆にするとところに就て見ても明かです。歐訪飛行機が飛び、オリンピックが開かれ、世界的の野球戦が新聞の紙面を賑はせるといふ今日、國民生活に密接の關係ある讀本が世界的となつたのは寧ろ當然過ぎた事だと思ひます。「アメリカだより」が取られ、「南米通信」が取られ、「楊子江」や「ナイヤガラの瀧」や「パナマ運河」が加はり、「エヂソン」や「リンカーン」や「ウエリントン」などが取入れられてゐるのは、其の間の消息を説明して餘あるものと云へませう。

最後に練習文が加はつたといふ事ですが、これは全國小學校長會議の答申に因つたもので、「教材を主要課と補助課とに別けて欲しい」といふ意見を尊重した結果なのであります。練習文は新出文字を提出しないで、主として子供の力に任せて讀解させようといふのでありまして、漢字教育に無用の力を費さないで國語本來の目的に向つて直進せしめようといふのであります。

この練習文には二つの場合があるのでありまして、練習文本來の目的に従つ

て、全然教師の手を離れて子供獨自の力によつて讀解せしめるに適應しいものと、今一つは文字教育の桎梏を離れて主として内容に力を專注せしめようといふ場合とを含んでゐます。「カンガヘモノ」「山がら」「口話」「熊のさゝやき」「マリーのきてん」「若葉の山道」「いもほり」「ふか」「小さなねぢ」などは前者で、「萬の姫」「塙保巳」「道ぶしん」「青の洞門」などは後者に屬してゐます。随つて前者は其のまゝ子供に投渡して全然子供の自由に任せて然るべきですが、後者は内容を重視して教材獨自の使命を貫徹するに力を用ゐなければなりません。以上の各項は國語讀本の特徴の主なるものですが、尙其の一つくゝに就いて吟味して見ますと、内容が著しく興國的發展的の氣分に充ちてゐるといふ事や、實質剛健の氣風を作興するに力を注いでゐるといふ事や、文學的色彩に富み藝術的の氣分に充ち満ちてゐるといふ點などは、從來の讀本に比して確に一步を進めたものと謂つて然るべきでありませう。

教材の分類

國語讀本の教材は大體如上の趣旨に依つて選擇されたものでありまして、編纂趣意書には之を修身的教材、歴史的教材、地理的教材、理科的教材、實業的教材、國民科的教材、文學的教材の七つに分類してあります。此の分類は大體教材の質に依つて分類したものでありますが。併し其の一つく、に就いて嚴密に吟味して見ますと、修身的と銘を打たれてゐる教材が著しく文學的色彩に富んでゐたり、歴史的教材と銘を打たれてゐる教材が却て修身的教材となつてゐる様なものも尠くありません。地理の中に理科が這入つたり、理科の中に地理が這入つたりして、教材の内容が雜多になつてゐます。これは前にも言つた通りに讀本教育本來の使命から云つて當然の事で、寧ろ斯うした分類を行つたのが不自然であつたかも知れません。趣意書にもこゝらの懸念からして、其の卷二の部に、

教材ヲ其ノ性質上ヨリ類別シテ、修身歴史地理理科實業國民科等トナスコト、一般ノ慣例ナルニ似タリ。サレド各課必ズシモ明瞭ニ類別シ得ベクモアラズ。某々ノ課ハ理科的ノ教材ニシテ、實業ニ關係スルコト深く、某々ノ課ハ歴史的教材ニシテ、又教訓ノ意ヲ寓ストイフノ類少カラズ。而シテ以上ノ類別中ニ入ルベカラザル國語讀本特有ノ教材モ亦多シ、所謂雜ノ中ニ入ルベキモノナリ。假リニ之ニ名ヅクルニ文學的教材ノ名ヲ以テシテ、以下一卷毎ニ類別表ヲ掲ゲントス。コレタダ教授者ノ参考ニ資セントスルニ他ナラズ。隨ツテ人ニヨリテ其ノ取扱ヲ異ニスルモ更ニ差支ナキコトナリトス。

と釋明を加へてゐるのであります。兎に角此の分類は頗るルーズなもので、唯單に編纂者の手控を其のまゝ公表したといつた位の意味に解釋しなければなりませんまい。

現在の編纂組織は前にも言つたやうに非常に複雑で、多數の編纂者の手に依

つて起稿せられ、いろ／＼な調査機關の審議を経て初めて成案となるのでありまして、其の間、統制を圖るために豫め一般方針を定めて置く必要があるのではないかと、筆者は、碎いて言へば、任せて置けばどんなものを拵へるか知れない、筆者の趣味や嗜好によつて著しく一方に偏した讀本が出来てはならないといつた懸念から、先づ大體教材の質によつて、修身からも取り、歴史からも取り、地理からも取りして、一方に偏しないやうにと先づ斯うした分類表を拵へて、それに依つて教材の類別を行ひ、然る後それ／＼分擔して起稿するといふ事になつてゐるのであります。其の分類が是れで、つまり編纂者各自の手控に過ぎないのであります。ですから之を趣意書の上に明記して公表する必要があるかどうかは兎に角として、斯うした意味合の分類だといふ事を豫め承知して置くことは教材取扱者として必要な事ではありますまいか。無論此の分類に囚はれる必要は全然無いのであります、そこが所謂編纂趣意書の「コレタダ教授者ノ参考ニ資セントスルニ他ナラズ。随ツテ人ニヨリテ其ノ取扱ヲ異ニスルモ更ニ差

支ナキコトナリトス」と斷つた所以なのであります。

今左に趣意書の分類表に依つて教材配置の有様を通覽して見ませう。

修身的教材

卷 二

犬ノヨクバリ。ミヨチヤン。ネズミノチエ。オクスリ。目ト耳ト口。

卷 三

お花。きやうだい。五一ぢいさん。まはりつこ。カウモリ。

卷 四

柿。日と風。しひの木とかしのみ。一本杉。

卷 五

大日本。用水池。一足々々。熊のさゝやき。

卷 六

虎と蟻。けんやくと義捐。記念の木。

國語讀本の内容

第三篇 讀本の内容

六六四

卷 七

長き行列。一太郎やあい。安倍川の義夫。助力。

卷 八

鯉馬。吳鳳。心と心。町の辻。胃とからだ。

卷 九

五代の苦心。老社長。水兵の母

卷 十

明治神宮参拜。燈臺守の娘。言ひにくい言葉。たしかな保證。

卷 十一

のぶ子さんの家。鐵眼の一切經。

卷 十二

明治天皇御製。リヤ王物語。我が國民性の長所短所。

歴史的教材

卷 二

ウシワカマル。モチノマト。ハナサカヂヂイ。大江山。

卷 三

うらしま太郎。をのたうふう。はごろも。

卷 四

白ウサギ。扇のまと。曾我兄弟。

卷 五

大蛇だいち。金鷄勳章。熊襲征伐。養老。八幡太郎。

卷 六

くりから谷。弓流し。萬じゆの姫。神風。千早城。

卷 七

鎌倉攻。川中島。木下藤吉郎。加藤清正。

卷 八

武將の幼時。大岡さばき。塙保巳一。廣瀬中佐。乃木大將の幼年時代。

國語讀本の内容

六六五

第三篇 讀本の内容

六六六

卷 九

弟桶媛。兩將軍の握手。

卷 十

アレクサンドル大王と醫師フィリップ。鉢の木、文天祥。兒島高德。

卷 十一

孔子。賤嶽の七本槍。松坂の一夜。リンカーンの苦學。孔明。

卷 十二

チャールス、ダーウィン。間宮林蔵。釋迦。勝安芳と西郷隆盛。

地理的教材

卷 三

四方。私ノ村。

卷 四

私どもの町。汽車のたび。

卷 五

遠足。日本三景。峠から町へ。東京停車場。

卷 六

日本の高山。賀茂川。

卷 七

世界。横濱。大阪。大連だより。

卷 八

揚子江。アメリカだより。名古屋市。

卷 九

トラック島便り。ナイヤガラの瀧。東京から青森まで。白馬岳。

卷 十

パナマ運河。京城の友から。太宰府まうで。

卷 十一

上海。瀬戸内海。北海道。南米より(父の通信)。

國語讀本の内容

六六七

第三篇 讀本の内容

卷 十二

出雲大社。ヨーロッパの旅。奈良。

六六八

理科的教材

卷 二

オヤ牛と子牛。

卷 三

ヒヨコ。竹の子。セミ。水デツバウ。

卷 四

山びこ。フクロフ。ナゾ。

卷 五

ツバメ。雨。ブダウ。

卷 六

ヤクワントテツピン。銕。磁石。象。

卷 七

馬。海ノ生物。

卷 八

鷺。水の力。

卷 九

動物ノ色ト形。いもほり。星の話。

卷 十

傳書鳩。温室の中。

卷 十一

太陽。人と火。曆の話。

卷 十二

十和田湖。トマス、エヂソン。電氣の世の中。

實業的教材

國語讀本の内容

六六九

第三篇 讀本の内容

六七〇

卷 四

麥まき。大工小屋。

卷 五

大賣出し。蠶。

卷 六

俵の山。メリンス。

卷 七

カヂ屋。彼岸。

卷 八

炭焼。看板。

卷 九

養雞。麥打。弟から兄へ。

卷 十

馬市見物。炭坑。捕鯨船。

卷 十一

植林。ゴム。ガラス工場

卷 十二

蜜柑山。商業。我が國の木材。まぐろ網。

國民科的教材

卷 四

十月三十一日。

卷 五

郵便函。

卷 六

入替した兄から。

卷 七

電報。

國語讀本の内容

六七一

第三篇 讀本の内容

税。分業。
卷 八

卷 九

物ノ價。選舉ノ日。

卷 十

銀行。輸出入。平和なる村。

卷 十一

裁判。貨幣。自治の精神。

卷 十二

新聞。國旗。法律。

文學的教材

卷 二

ウンドウクワイ。オキヤクアソビ。キクノハナ。カンガヘモノ。ユフヤケ。月。夕ヲヒロヒ。木

ノハ。オ正月。ユキ。ユキダルマ、カゲエ。ナゾ。コレカラ。ヒカウキ。

卷 三

イマハ。ハヤオキ。うちの子ねこ。ゆびのな。かんがへもの。わらびとり。右と左。一口ばなし。ささ舟。虫ぼし。十五や。ふじの山。

卷 四

お祭。をぢさんのうち。すすはき。かるた取。ゑはがき。お話二つ、山がら。ヒナマツリ。春が来た。

卷 五

中村君。松太郎の日記。鯉のぼり。私の家。一口話。虹。水見舞。

卷 六

きのこ取。海。霜。町ノ朝。笑ひ話。冬の夜。氷すべり。芽。伊勢参宮。

卷 七

潮干狩。れんげさう。傘松。獅子と武士。初夏の夜。航海の話。マリーのきてん。二百十日。注文。

國語讀本の内容

第三篇 讀本の内容

六七四

卷 八

山の秋。犬ころ。手の働。朝鮮人墓。手紙。餅つき。コロンブスの卵。啞の學校。人を招く手紙。

卷 九

今日。若葉の山道。水師營の會見。軍艦生活の朝。石安工場。初秋。北風號。手紙。

卷 十

道ぶしん。霧。開墾。陶工柿右衛門。登校の道。手紙。日光山。進水式。

卷 十一

遠足。手紙。畫師の苦心。ふか。無言の行。我は海の子。遠泳。ウェリントンと少年。

卷 十二

鎌倉。月光の曲。小さなねぢ。鳴門。青の洞門。舊師に呈す。港入。

教材の排列

以上の教材が十二冊の讀本にどんな具合に排列されてゐるかは編纂趣意書の
生に可なり詳しく説明が加へられてゐます。今左に編纂趣意書の示すところに

従つて教材排列の有様を通覽して見ますと、

卷 一

本卷ニハ清音・濁音・半濁音・促音・轉呼音（片假名文字全部）及び二三ノ長音ノ配シ方ヲ提出シ、又別ニ漢字ノ數字一ヨリ十二至ルマデノ十字ヲ出セリ。

從來ノ第一種讀本ニ於テハ、片假名ノ新字ハ専ラ名詞・形容詞・動詞等ニヨリテ提出シ、語ヨリ句ニ進ミ、句ヨリ文ニ移ルコトトシ、卷一第十九頁ニ至リテ始メテ完全ナル文ヲ提出セリ。サレド是等ノ語ト句トハ教授ノ際、文ノ形ニ於テ問答セラルルコト多キニ鑑ミ、本書ハ成ルベク早ク文ニ入り、文中ノ品詞ニヨリテ片假名文字ノ提出ヲナスノ方針ヲ採リテ、第四頁ヨリ文ニ入レリ。コレ又假名提示ノ間、動モスレバ事物教授ニ傾キテ、言語文章ノ應用練習ヲ閑却スルノ憂ヲ除クニ便ナルベシ。文ノ提出ノ順序ニ至リテハ、單ヨリ複ニ及ビ、簡ヨリ繁ニ移レルコト、固ヨリ從來ノ讀本ト異ナル所ナシ。而シテ五十音圖ハ清音文字ノ提出ノ終ルヲ待ツテ之ヲ掲ゲ、濁音文字ノ終リシ時ニ濁音表ヲ掲グルコトトセリ。

卷一ノ教材ハ、犬・猫・馬・牛ノ如キ家畜ヲ選ビテ、兒童ノ喜ブ所ニ應ズルト共ニ、數頁ニ亙リテ猿蟹合戦・桃太郎ノ如キ昔話ヲ加ヘ、他ニマダ動植物・天然現象及ビ器具玩具等ヲ加ヘテ、偏傾ナカラシメンコトヲ期セリ。

國語讀本の内容

六七五

新字ヲ用ヒザル練習文ハ所々ニ加ヘタレド、時ニ同一ノ文字ノミ反復セラレテ、各字練習ノ上ニ過不足ノ差アリ。教授者ハヨク此ニ留意シテ、適處ニ適當ナル文ヲ綴リテ、未熟ノ文字ヲ反復練習セシメンコトヲ要ス。

卷 二

本卷ハ初步ノ口語文ヲ學バシムルヲ目的トシテ種々長短ノ文ヲ收ム。總計二十五課、此ノ間五課ノ練習文ヲ置キ、他ノ二十課ニ於テ拗音・長音・拗長音ノ記シ方及ビ三十九字ノ漢字ヲ提出セリ。漢字ノ數ハ從來ノ第一種ノ本卷ニ比スレバ十五字ヲ増加セリ。コレ實地教授者ノ意見ニ基ツキ、其ノ配當ヲ從來ノ尋常小學第五六學年用書ヨリ百餘字ヲ減ジテ、之ヲ第一二三學年用書ニ加フルノ方針ニ出デタル結果ナリ。蓋シ漢字ハ長期ニ亘リテ反復練習ノ後、始メテ兒童ニ習熟セシメンコトヲ期スベク、教授者ハ特ニ漢字ニノミ力ヲ用ヒズ、寧ロ用語・言廻シ等ノ應用ニ工夫ヲ凝スヲ肝要トス。教材ハ成ルベク多方面ニ亘リテ、都鄙男女ノ何レニモ偏スルコトナキヲ期シタレドモ、學年ノ後半期ハ直觀教授ニ不便ナルヲ以テ、地理・理科ノ如キ實科的教材ヲ減ジテ、姑ク文科的教材ヲ多クセリ。

卷 三

本卷ニアリテハ平假名文字ノ提出ヲ形式方面ノ重要事トス。從來平假名ノ提出ハ、其ノ總ベテヲ教授シ了ヘテ後、一課全文假名交リヨリ成ルモノニ入ルノ方法ヲ採リタレドモ、本書ニハ第四課ヨリ平假名ノ新字ヲ欄外ニ掲グルコト漢字ノ場合ノ如クシテ、成ルベク早く平假名交リノ文ヲ提出スルコトトセリ。而シテ此ノ間、別ニ練習ノ語句文章ヲ設ケズ。教授者宜シク適當ノ語句文章ヲ用ヒテ、ヨク練習セシムベキナリ。

又從來いろは四十七字ハ此ノ卷ノ終ニ挿入シタレド、本書ニハ第四卷ニ「かるた取」ノ課ヲ設ケテ、其ノ課ノ終ニ之ヲ提出セリ。いろは順ハ今ナホ世ニ行ハルルヲ以テ之ヲ掲ゲタレド、彼ノ五十音圖ノ如ク學理的ニシテ將來語法學習ノ基礎トナルモノニアラザレバ、タダ之ヲ一應學バシムルニ止ムルモ可ナリ。各課ノ長短必ズシモ一様ナラズ。長キハ九頁ニ及ビ、短キハ一頁ヲ出デズ。コレ皆教材ニ順應シテ、叙述ノ上ニ變化ヲ試ミタル結果ナリ。叙述ハ成ルベク兒童ノ觀察及ビ用語ヲ尊重スルノ方針ヲ採リ、家庭ヲ中心トシテ記シタルモノ少カラズ。

卷 四

本卷ハ教材ヲ成ルベク多方面ニ採ルヲ旨トシ、實業ニ關スモノ、制度ニ關スルモノヲモ加ヘ、前卷ニ比シテハ、自然ニ關スル教材ヨリモ人文ニ關スル教材ニ富マシメタリ。又地理ニ關シテハ、郷土誌風ノモノヲ採リ、歴史ニアリテハ、童話ヲ去リテ漸ク史譚ニ入ラシメタリ。

各課ニ長短ノ差アルコト前卷ニ同ジ。コレマタ教材ノ性質ニヨルモノニシテ、最長篇八十頁ニ亘リ、最短篇ハ二頁ニ充タズ。随ツテ各卷ノ課數ハ階段的ニ増加セズ。教授者宜シク適宜ニ單元ヲ求メテ、必ズシモ行數・字數ノ同一ナランコトヲ期セズ、其ノ内容ノ難易ト新形式ノ有無トヲ考慮シテ、時ニ或ハ一課ヲ一單元トシ、時ニ或ハ數行ヲ一單元トナスノ用意ニ出ヅベキナリ。

卷五・卷六

卷五・卷六ハ卷四ニ接續シテ、教材ヲ成ルベク多方面ニ採リ、其ノ記述ハ力メテ多趣ナランコトニ留意セリ。

先ヅ形式内容ノ二方面ニ分チテ説明セン。

形式方面

形式方面ニ於テ説クベキハ漢字・用語・文章ノ三ナリ。
漢字ノ提出ハ卷五・卷六ヲ通ジテ三百七字、之ヲ在來ノ書ノ二百六十八字ニ比スレバ、約四十字ヲ増加シ、讀替ニ於テ六十三字ヲ増加セリ。コレ全ク編纂ノ方針ニ則リテ、漢字ノ提出數ヲ在來ノ高學年用書ヨリ減ジテ之ヲ低學年用書ニ増加スルノ方針ニ出デタルガ爲ナリ。而ツテ讀替ノ數ノ著シク増加シタルハ成ルベク應用ノ廣キ文字ヲ選ビテ提出シタル結果ニ他ナラズ。

漢字ニ就キテハ尙イフベキコトニアリ。一ハ振假名附ノ漢字ヲ多ク出シタルコトニシテ、他ノ一ハ世間通用ノ字體ニシテ簡略ナルモノハ、其ノ正體ト共ニ教フルノ方針ヲ取リテ、上欄ニ萬(万)蠶(蚕)絲(糸)等ト掲ゲタルコトコレナリ。前者ハ之ヲ兒童ノ目ニ觸レシムルニ止ムル趣意ナレド、後者ハ然ラズシテ、世間通用ノ字體ニモ通ゼシメンコトヲ期セルナリ。

用語ハ其ノ選擇ノ方針從來ト更ニ異ナル所ナシ。タゞ對話ニ於テ一層長幼尊卑ノ別ヲ明ラカニシテ、日常口語ノ實際ニ近ヅカシメンコトヲ期セルノ差アルノミ。

文章ハ内容ニ順應セシメテ、各課ノ長短格調ヲ定メタリ。其ノ結果、或者ハ長クシテ十五頁ニ亘リ、或者ハ短クシテ一頁ニ充タズ。又或課ハ極メテ緊張的ニシテ、或課ハ悠揚ニシテ迫ラザルガ如ク、各課必ズシモ一様ノ體ヲナサズ。而シテ處々ニ寫生文ヲ加ヘ、日記・日用文等ヲ掲ゲタルハ、綴リ方教授トノ間ニ聯絡アラシメントシタルナリ。又全ク新字ノ提出ナキモノヲ各卷ニ數課設ケタルコト、前學年用書ト異ナル所ナシ。

文語文ハ從來卷六ヨリ提出シタレド、本書ニ於テハ卷七ヨリ之ヲ提出スルコトトセリ。

内容方面

本書ノ修身の教材ハ第三學年用ノ小學修身書ト聯絡ヲ取リテ、其ノ訓戒ノ豫備トナリ、應用トナルガ如

第三篇 讀本の内容

六八〇

キ事例ヲ掲グルコトトセリ。タダコレニアリテハ、必ズシモ實在ノ人ノ行ヲ主トセズシテ、寓話アリ、假作譚アリ、マタ韻文ノ形式ニヨルモアリテ、何レモ皆兒童ヲシテ感奮興起セシメンコトヲ期セリ。又歴史的教材ハ他日學習スベキ日本歴史ノ準備トシテ、上ハ神代ヨリ下ハ現代ニ至ルマデノ、國史上重要ナル人物・事蹟ヲ選ビテ、之ヲ第三・第四兩學年用書ニ載スルノ方針ヲ取り、第三學年用書ニハ神代ヨリ吉野朝ニ至ルマデヲ配當スルコトトセリ。

地理的教材ハ歴史的教材ト共ニ、他日學習スベキ日本地理ノ豫備知識トナルベキモノヲ採レリ。

理科的教材ハ成ルベク兒童ノ目撃スルモノニシテ、人生ニ關係深キ事物・現象ニ採リ、時ニ珍奇ナル物ヲ紹介ストイフヲ方針トセリ。

又實業的教材ハ農工商等ニワタリテ、其ノ一ニ偏スルコトナク、國民科的教材ハ日常生活ニ密接ノ關係アル制度ニシテ理解シ易キモノヲ採ルヲ方針トセリ。

分量

前述ノ形式内容ニ成レル本書ハ、其ノ分量、從來ノ書ノ卷五・卷六ノ通計百六十八頁ニ對シテ二百十頁即チ二割五分ノ増加トナレリ。コレマタ編纂ノ方針ニ則リタルナリ。

各説

卷五ノ卷頭第一課ハ「大日本」ニシテ、卷尾ノ「東京停車場」ト相呼應セシメ、此ノ間ニ各種ノ教材ニ成ルモノノ二十四課ヲ置キテ、國民性ノ涵養ト常識ノ養成トニ資セリ。而シテ季節ニ關係アルモノハ、成ルベク其ノ時期ニ相當セシメタルコト從前ニ同ジ。

卷六ヲ使用スルハ秋ノ收穫期ヨリナレバ、先ヅ卷頭ニ「俵の山」ヲ置ケリ。而シテ卷尾ニ「伊勢參宮」ヲ配シタルハ遙ニ卷五卷頭ノ「大日本」ト呼應セシメタルナリ。而シテ本卷ノ内容ガ、各種ノ教材ヨリ成レルハ卷五ノ如クニシテ、其ノ目的トスル所モ亦同ジ。

卷七

形式方面ニアリテ特ニ注意ヲ要スルハ、本卷ヨリ、始メテ文語文ヲ提出シタル事ナリ。即チ卷頭ノ「世界」ヲ始トシテ本卷中ニ凡ソ九課ノ文語文ヲ出セルヲ以テ、其ノ割合ハ全體ノ約三分ノ一強ニ當ル。又其ノ提出ノ方法ハ、最初ノ間ハ二課又ハ三課宛連續シテ文語文ヲ出スコトトセリ。是實地教授者ノ取扱上多少ノ便利アルベキヲ信ジタレバナリ。

課數ハ從來ノ尋常小學讀本ノ卷七ト同數即チ二十六課、頁數ハ彼ノ九十二頁ニ對シ之ハ百十四頁トナレルヲ以テ、二十二頁即チ約二割五分ノ増加ナリ。

次ニ内容方面ニアリテハ、本卷ヨリ外國ノ地名・人名其ノ他外國ニ關スル材料ヲ入ル、コトトセリ。コ

第三篇 讀本の内容

六八二

レ畢竟、學年ノ進ムニ從ヒ兒童ヲシテ徐々ニ外國ノ事情ヲモ知ラシメントスルノ趣意ニ外ナラズ。其ノ他教材ヲ修身・歴史・地理・理科・實業・國民科等各方面ニ取り、間々練習文ヲ交へ、各課ニ長短ノ差ヲ設ケ叙述ノ上ニ多少ノ變化ヲ與ヘタルコトナドハ卷五・卷六等ト異ナル所ナシ。

卷 八

前條卷七ニ關シテ述べタル以外、特ニ本卷ニ就キテ注意スベキ事項ヲ有セズ。

形式方面ニアリテハ、文語文ヲ交フルコト八課ニシテ、口語文トノ割合ハ略々前卷ニ等シク、提出ノ方法亦概シテ之ニ倣ヘリ。

課數ハ二十八課ニシテ、從來ノ尋常小學讀本卷八ニ比シ二課ヲ増シ、頁數ハ百十六頁ニシテ約二十一頁ノ増加ナリ。

内容方面ニアリテハ修身・歴史・地理・實業・國民科等、ナルベク取材ノ範圍ヲ廣クシ、朝鮮・臺灣・支那・亞米利加等ノ材料ヲモ増加シ、且叙述ノ方法モ從來ノ如ク成ルベク力強キ印象ヲ與ヘンコトニ力メタリ。

卷 九

形式方面ニアリテハ、文語文ヲ交フルコト九課ニシテ、全體ノ約三分ノ一強ニ當ル。其ノ提出方法ハ略シ卷七・卷八ニ同ジ。

尙此ノ卷ヨリ書簡ノ文トシテ候文ヲ提出セリ。シカモ讀易ク解シ易キヲ旨トシ、送假名ノ如キモ世間ノ慣用ニヨラズ、他ノ口語文・文語文ト同様ニ扱ヒタリ。但シ更ニ上級ニ至リテ世間慣用ノ送假名法ニヨレル候文ヲ示ス豫定ナリ。

全卷課數ハ二十五課ニシテ、從來ノ尋常小學讀本卷九ニ比シ二課ヲ減ジタリト雖モ、頁數ハ彼ノ九十六頁ニ對シ、コレハ百二十三頁ナルヲ以テ、二十七頁、即チ約二割八分強ノ増加ナリ。

次に内容ニ就イテ一言セン。教材ヲ修身・歴史・地理・理科・實業・國民科・文學等ノ各方面ニ採リ、間々外國ニ關スル材料ヲモ加ヘタルハ、從來ノ卷ト同様ナリ。唯學年愈々進ミ、小學上位ノ學級ニ用フル教科書タルノ實アラシメンガタメニ、本卷以降、内容モ漸ク複雑ニシテ深味アルモノヲ選ブニ留意シタリ。

卷 十

本卷ニアリテハ、文語文ヲ交フルコト十一課ニシテ、全體ノ三分ノ一強ニ當ル。

全卷課數ハ二十七課ニシテ、從來ノ尋常小學讀本卷十ト全ク同ジ。然レドモ頁數ハ彼ノ百三頁ナルニ比シテ百三十四頁ナレバ、三十一頁、即チ約三割強ノ増加トナル。

取材ニ就イテハ前卷同様ノ注意ヲナセリ。

卷 十一・卷 十二

國語讀本の内容

六八三

卷十一・卷十二ハ既刊趣意書所載ノ編纂方針ニ從ヒ、第六學年用トシテ新ニ編纂シタルモノナリ。
先ヅ形式的方面ニ就イテ述ベン。卷十一ハ文語文ヲ交フルコト十課、卷十二ハ十二課、全課數ニ對スル
割合ヨリイヘバ、共ニ約三分ノ一ニ當ル。

書簡文ハ兩卷トモ新ニ行書ヲ以テ記セルモノヲ置キタリ。尙候文ノ送假名ハ卷九及ビ卷十二ニ於ケルモノ
ト稍々趣ヲ異ニシテ、幾分世間慣用ノ送假名ニ近ヅカシメタリ。

全卷ノ課數、卷十一ハ二十八課、卷十二ハ二十七課ニシテ、從來ノ尋常小學讀本ニ比スルニ、卷十一ハ
全ク同ジク、卷十二ハ一課ヲ減ズ。然レドモ頁數ハ尋常小學讀本卷十一ハ百十八頁、同卷十二ハ百二十
一頁ナルニ對シ、國語讀本卷十一ハ百三十頁、同卷十二ハ百三十九頁ナルヲ以テ、卷十一ニ於テハ一割
一分、卷十二ニ於テハ一割四分ノ増加トナル。

内容ニ就イテハ從來同様、教材ヲ修身・歴史・地理・理科・實業・國民科・文學等ノ各方面ニ採レルハ勿論、
スベテニワタリ尋常小學最上級ノ讀本タルニフサハシキモノダラシムルコトニ留意シタリ。

之に依つて讀本の組織體裁の大體を想像することが出來ませう。

教材の内容と其の展開

卷 一

ハナ

尋常小學讀本には卷頭に「ハナ」を出してゐますが、こちらは國花の「ハナ」を
出してゐます。どちらも愛國的の題材で讀本全體を象徴したものと見られま
せう。

ハト マメ マス

鳩は平和の天使、動物を愛する子供の天性にもしつくり合つてゐます。

ミノ カサ カラカサ

カラス ガ キマス。

スズメ ガ キマス。

教材の内容と其の展開

ウシ ガ キマス。

ウマ ガ キマス。

ウシ ト ウマ ガ キマス。

僅かに三頁で單語を切上げて直ちに文に入つたのも新らしい試みだし、巧みに聲調美を利用して口調を整へてゐるのも見逃し難い所です。ハナ ハト マ
メ マス は頭韻、ミノ カサ カラカサ は頭韻と脚韻、カラカサ からカ
ラス ガ キマスに續け、それを スズメ ガ キマスで受け、更に ウシガ
キマス。ウマ ガ キマス。ウシ ト ウマ ガ キマス。と頭韻脚韻をふま
せたあたり、かなり苦心が拂はれてゐます。

ハサミ ガ アリマス。

モノサシ ガ アリマス。

ヒノシ モ アリマス。

は家庭的女子教材、

オミヤ ガ アリマス。

オテラ ガ アリマス。

ヤクバ モ アリマス。

は郷土的公民教材、キマス の状態から アリマス の存在に及ぼしたあたり
も見逃しがたいところだと思ひます。

イヌ ガ キマス。

シロイ イヌ ト クロイ イヌ ガ キマス。

オヤネコ ト コネコ ガ キマス。

コネコ ガ ニヒキ キマス。

子供に親しみの多い犬と猫、前者は男性的で後者は女性的、前者の活動的な
のに對して後者の靜止的なところも頗る興味があります。

サル ト カニ

十頁から十九頁までは呼物の猿蟹合戦です。これまで讀切式で來て突然こん

な思切つた長篇物を出して目先を變たのは確かに編者の英斷です。十頁に亘る長篇に十六字の新出文字を配し、約二十時間を割かうといふのですから、可なりの大仕掛です。續き物を一頁づゝに句切つて、或る頁は韻文風の形にし、或る頁は練習文の形にして巧に變化を附けてゐます。全體をズツと讀通しても興味がありますし、尙又一頁々々を讀んでも相當に味があります。兎に角思ひ切つた編纂法で讀本編纂に一新例を開いたものとも言へませう。

アメ ガ ヤミマシタ。

ヒ ガ テリダシマシタ。

スズシイ カゼ ガ フイテ、ヨイ ココロモチ デス。

心機一轉、長篇物の次に自然の爽快な教材を配してゐます。

デンデンムシムシ カタツムリ、

アタマ ガ アルカ、メ ガ アルカ。

ツノ ダセ、ヤリ ダセ、アタマ ダセ。

猿蟹合戦で童謡趣味を味はせた編者は更にこゝでデンデンムシムシの童謡を出してゐます。童謡が讀本に取り入れられたのも國語讀本の特色の一つです。

ニイサン ガ エ ラ カイテ キマス。

ネエサン ガ ジ ラ カイテ キマス。

マサラ ガ ソバ デ ミテ キマス。

主語客語説明語の完備した文です。猿蟹合戦を出し、デンデンムシを出した編者は、此處で引締つた眞面目な文を讀ませようとしてゐます。これまで斯うした文形は話方や其他で何遍も練習してゐるのでありますが、此處でいよいよ正式に完備した文を出して確實に練習の機會を與へようといふのであります。

ホタル ガ トンデ キマス。

アチラ ニモ、コチラ ニモ、

ホタル ラ ヨブ コエ ガ シマス。

國語讀本は田園趣味の鼓吹に力を用ひてゐますが、特に此卷では田舎趣味の

濃厚なものが澤山取入れられてゐます。其の中でも此の螢狩は最も出色のもので、田舎情調としては無くてならない教材の一つです。

前半は視覚に懇へ、後半は聴覚に懇へてゐます。夜景を想像させるに相應い黒抜きの繪畫を配して子供の興味を唆つたあたり、文に一段の情味を添へてゐます。

ハス ノ ハ ニ ツユ ガ タマツテ キマス。

カゼ ガ フク ト、コロコロ コロガリマス。

蓮の葉の露は好い教材です。ゆらく、搖れる蓮の浮葉にころく、轉がる露の玉などは、田舎でなければ見ることの出来ない情景で、田園趣味の盛上つてゐるところを味つて見たいものです。文の形も可なり複雑で「ハス ノ ハ ニ ツユ ガ タマツテ キマス」は「ツユ ガ ハス ノ ハ ニ タマツテ キマス」の倒置、「カゼ ガ フク ト コロコロ コロガリマス」は複文で主語が省略されてゐます。倒置は元の形に直して味はせ、省略は省略された部分

を補はさて、其の語感を味はせて見なければなりません。

ヘチマ ノ ハナ ガ サキマシタ。

ツボミ モ タクサン ツイテ キマス。

イマニ ナガイ ミ ガ ナリマス。

新字「へ」を授ける爲に工夫した教材です。此學年では片假名文字を授けるといふ大きな仕事がありますので、色々無理な工夫をしなければなりません。此教材の如きも「へ」を授けるに適當した範語が至つて少いので、糸瓜を題材に取るまでには餘程の苦心が拂はれてゐます。兎に角「へ」を授ける題材として糸瓜は一寸目先の變つた良い教材だと思ひます。

五十音圖

従來の讀本では卷末に出してありましたが、國語讀本では清音を教授し終つた所で五十音圖を出し、濁音を教へ終つた所で濁音圖を出すことになつてゐます。

コレ ハ ワタクシ ノ ハコニハ デス。
 コノ カタイ トコロ ハ ヤマ デス。
 コノ ヒクイ トコロ ハ カハ デス。
 ヤマ ニハ キ ガ ウエテ アリマス。
 カハ ニハ ハシ ガ カケテ アリマス。

何の奇もない平凡な教材のやうですが、しかし子供々々しい好い教材です。文理の整つてゐるのも此の教材の特色として見逃してはなりません。

此の教材は「ハ」の轉呼音を教へるのが主な仕事ですが、「ハ」と「ワ」の使ひ分けを知らせるには可なり苦心が拂はれてゐます。假名遣の問題は音と文字の不一致から起きて來ますが、國語讀本では此教材から其の面倒な問題に足を踏み入れることになつてゐます。

「アヒル ガ オヨイデ キマス。ナンバ キル カ、カゾヘテ ゴラン ナサイ。」

「一ハ 二ハ 三バ 四ハ、四ハ キマス。」
 「アチラ ニ 一ハ キマス。」
 「ソレ ナラ 五ハ デス。」
 「マタ 一ハ キマシタ。」
 「ソレ デハ 六バ デス。」

對話の形は此處が初出です。形式方面では「ゾ」「ゴ」「バ」の濁音、「ニ」「三」「四」「五」「六」の漢字、轉呼音「へ」、助動詞「ハ」接續詞「ソレナラ」「マタ」「ソレデハ」の四つが主な仕事となつてゐます。文としては疑問に續ける命令の形「ナンバ キル カ、カゾヘテ ゴラン ナサイ」などにも注意を拂はなければなりません。また「一」から「六」までの漢字は既に算術で學んでゐるのですが、讀本としては矢張一度正式に教へておく必要があるのですから、特に此處では「一」から「六」までの漢字を授け、次の「ガン」で「七」から「十」までの漢字を授けることになつてゐます。

ヒノミ ノ カネ ガ ナツテ キマス。

ヒケシ ガ トンデ イキマス。

トビグチ チ カツイデ イキマス。

ハシゴ ノ アト カラ マトヒ ガ イキマス。

マトヒ ノ アト カラ ボンプ ガ イキマス。

濁音半濁音でまだ授けてゐない「グ」「ボ」「ブ」の三字と轉呼音「ヒ」を授ける爲に工夫した教材です。

鐘が鳴る、それ火事だと窓を開けると火消が飛んで行く、鳶口が走る、梯子が行く、唧筒が行く、火の見の半鐘がひつきりなしに鳴つてゐる——さうした急迫な場面を捉へて齒切れの好い口調で巧に描き出してゐます。斯うした光景は都會ではもう見る事が出来ませんが、しかし趣味の上から見ますと、現代式の消防よりも此の形の方が餘程味があります。火事といへば蒸氣唧筒が飛んで行く、消防夫が自動車で駆けつゝける。すべてが呆氣ないものです。趣味はや

はり古風で便利本位の現代式よりも昔風の方が餘程味があります。

ガン ガ トンデ キマス。

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

十バ トンデ キマス。

ガンガン ワタレ。

オホキナ ガン ハ サキニ、

チヒサイ ガン ハ アトニ、

ナカ ヨク ワタレ。

雁を題材に取つて「七」「八」「九」「十」の漢字と轉呼音の「ホ」を授けようといふのであります。兄と妹が空に列を成して飛ぶ雁を眺めて、一羽二羽三羽と數へながら「ガンガン ワタレ」の童謡を口づさんでゐる形です。そこらに田園趣味の濃厚に漂つてゐる所を味つて見たいものです。

オハナ ガ エンビツ デ アサガホ チ カキマシタ。

ナンベン モ カキナホシテ、ニイサン ニ ミセマシタ。

「ニイサン、ミテ クダサイ。」

「ヨク デキマシタ。ハナ ハ ソレ デ ヨイ カラ、ハ ナ チ ヒサ ク シテ、モウ 一ベン カイテ ゴラン ナサイ。」

この頁は「ビ」「ベ」の新字と轉呼音「ホ」の練習に資する爲に工夫されたものであるが、文全體から見ましても今までにない新しい形です。前半は地で後半は對話になつてゐます。對話だけで出來た文は既に學んでゐますが、地と對話で出來た文はこれが初めてです。お花が朝顔の繪を描いて、それを兄さんに見て貰つたといふ筋で、前半は後半の對話を引出す爲の枕になつてゐます。妹の妹らしいところ、兄の兄らしいところを味つて見たいものです。

ユフガタ ニ ナリマシタ。

オチヨ サン ノ ウチ デハ、

オザシキ ニ アカリ ガ ツイテ キマス。

ハヤク カヘラナイ ト、オヂイサン ヤ オバアサン ガ シンバイ

ナサイマス。

此の頁は濁音文字でまだ残つてゐる「ザ」「ジ」の二字と、轉行音の「フ」を出す爲に工夫した教材で、對話の一方だけを示した形になつてゐます。兄の言葉だけを出して、妹の言葉を全然讀者の想像にまかせてゐる所に面白味があります。

一バンボシ ミツケタ。

アレ アノ モリ ノ

スギ ノ キ ノ

ウヘ ニ。

二バンボシ ミツケタ。

アレ アノ ドテ ノ

ヤナギ ノ キ ノ

ウヘ ニ。

三バンボシ ミツケタ。

アレ アノ ドテ ノ

マツ ノ キ ノ

ウヘ ニ、

前の教材に縁を持たせて、此處では星の童謡を出してゐます。

陽が落ちてお座敷に燈火が點く頃です。空にはボツボツ星が光りはじめます。一つ二つとだんく、數が殖えて行きます。子供がそれをなつかしうに見上げて、それあそこ、あれあそこ、あたしが一番、あたしが二番と互に競争してゐる有様を其の儘歌つたのが此の詩なのであります。「二バンボシ ミツケタ」と呼び、「二バンボシ ミツケタ」と叫ぶ、何處までも子供子供しいところに此の詩の生命があります。

濁音圖

こゝでやつと濁音半濁音が出揃ひましたので、一括して濁音圖が出してあり

ます。

練習略畫

頁の都合で餘白が出来ますので、略畫を配して濁音練習に資すると共に、次の長篇桃太郎の表紙繪に代へてあります。

モモタラウ

五十音も清濁共に學び終つたのですから、此處では練習として桃太郎の童話を出してゐます。前後十一頁に亘る長篇、文の形も可なり複雑ですが内容が内容ですから面白く讀ませることが出来ませう。

卷 二

一、ウンドウクワイ

開卷先づ明るいぱつとした題材で讀者の興味をそゝつてゐます。時は仲秋、

教材の内容と其の展開

天高く馬肥えるの季節、どの學校でも或は遠足に或は運動會にと盛に郊外運動を試みる季節です。此際に新に提供される讀本が巻頭に「ウンドウクワイ」を出したのは誠に好い思付で、兒童の感興をそゝるに十分でありませう。

二、オキヤクアソビ

拗音の教授には好い教材です。「キャ」「シャ」「チャ」「タウ」が一緒に出せますので、従來の讀本にも取られてゐました。前の課が男子的で、此課は女子特有のもの、配材も頗る妙です。

三、キク ノ ハナ

始めて出た純對話文です。戯曲的の描寫とでもいふべきもので、對話の自然に行つてゐる所に特色があります。家庭で行はれてゐる言葉其の儘で、母子の愛情が濃かに描き出されてゐます。

四、ウシワカマル

練習文の形になつてゐる新字は一字も出してありません。しかし書振も變化

に富み内容にも相當に骨が折れませう。

牛若辨慶は國民傳説の中で有名ものゝ一つです。一少年牛若が雲衝くばかりの大入道を降参させたといあたり、兒童の興味を唆るに十分でありませう。

五、カンガヘモノ

軽い可笑味の教材で獨逸種です。ちよつと考へ、おいそれと早呑込して失敗した可笑味です。ハハアと頭に手をやつてフツと吹出す可笑味です。辨慶牛若の大物に頭を使はせた後の息抜かしです。

六、犬 ノ ヨクバリ

これも好い教材です。出處はイソツプですが、殊更に道德を強ふるやうな取扱は絶対に禁物です。

七、ユフヤケ

純然たる文學教材で、田園趣味が到る處に盛上つてゐます。

八、月

前課の「ユウヤケ」の後を受けて、これは月明の美観です。純文學的の教材で田園趣味の充ち満ちてゐるところを味つて見たいものです。

九、クリヒロヒ

これも文學的教材です。季節に合せ目先を變へようと努力してゐる所を買つて見たいものです。

十、木ノハ

讀本唱歌から採つたもので子供にはかなり喜ばれてゐる韻文です。内容は自然の戯れとでもいふべきもので、晩秋の自然を背景にして可笑味の中に靜寂な氣持を漾はせてゐます。

十一、ミヨチャン

題目の「ミヨチャン」に先づ讀者の興味を集めてゐます。教材の分類には修身的教材となつてゐますが、寧ろ純文學的教材と看做した方が良いでしょう。教訓といつてもほんの軽い意味の教訓で、修身的と銘を打つにはちと大袈裟かも知

れません。

十二、ネヅミノチエ

これも修身的教材で出所はイソツブです。

この教材が含む教訓は、俗に言ふ出来ない相談、言ふは易く行ふは難しといふ可なり高尚な教訓であります。鼠仲間の話によつて斯うした教訓を諷したところ此の教材の貴さがあります。

十四、モチノマト

山城風土記の伊奈利社の條と、豊後風土記の豊後國玖珠郡の古傳記に據つたもので、正月の供餅に連絡して出したものです。

米を大切にすることと生物を苦しめてはならぬといふ事を教へたもので、我が國には無くてならない傳説の一つであります。

十五、ユキ

これも期節に縁を求めたもので立派な文學的教材です。

雪は子供の喜ぶもので、古い童謡にも、雪やこんこ、霰やこんこ、風よ吹け吹け、子供は風の子といふのがあります。

十六、ユキダルマ

前課に續いた連絡教材で、やはり文學的教材です。

眞白く降積つた雪は子供に取つては好い手工材料で、彼等には直ぐにそれが雪達磨にもなれば雪饅頭にも雪兎にもなります。雪達磨は男性的で雪兎は女性的です。さうした趣味を背景にして編者は男に雪達磨、女に雪兎を配して雪の日の楽しい氣持を描いてゐます。

十七、ハナサカヂヂイ

十三頁に亘る長篇で半練習文の形になつてゐます。此の教材は編纂趣意書に歴史的教材の中に編入されてゐますが、これは編纂上の約束で童話や傳説の如き總て之を歴史的教材と看做すことになつてゐるからであります。ですから別段歴史的に考證したり年代的に吟味したりする必要は絶対にありません。唯何

處までも面白い話として読み耽らせる間に、正直慈悲寡欲といつたやうな國民性を培養することが出来たらそれで結構です。善因には善果あり惡因には惡果があるといつたやうなことを、それとなく感知させることが出来たらそれで十分です。

十八、カゲエ

長篇の次に短篇を配するのは國語讀本を一貫した慣用です。前課で「ハナサカヂヂイ」の長篇を讀ませ、こゝでは一寸目光を變へてあつさりした「カゲエ」を出してゐます。大物で頭を使はせた後の心氣一轉です。

十九、ナゾ

練習文です。前課には影繪を出し此處には影法師を出してゐます。内容上に軽い聯絡があります。

二十、オクスリ

獨逸種で修身的教材です。從來の讀本に出てゐた「子どもの心」と筋も形も其

儘です。

二十一、目 ト 耳 ト 口

やはり外國種の修身的教材です。從來の讀本に出てゐた「學校へもつて行くも
の」を修正して、構想の上にも言ひまはしの上にも一段と新味を添へてゐます。

二十二、オヤ牛 と 子牛

田園趣味に富んだ教材です。本巻唯一の理科教材ですが、文學的色彩も濃厚
で一讀思はずホロリとさせられます。

二十三、コレカラ

題目が先づ讀者を引付けます。暗い陰鬱な冬から解放されて華やかな春を迎
へた喜びです。仲間とした氣持と希望に輝く新生の意氣が文の表に充ち満ちて
ゐます。

二十四 ヒカウキ

募集韻文の中の傑作です。

飛行機の上つて行くのを見てゐた子供が、喜びの餘りに叫んだ言葉其儘を詩
にしたやうな形で、子供の感じが能く出てゐます。

二十五 大江山

卷末の雄篇です。

尙武の意氣を鼓吹するには好い教材で、横暴に對する正義の勝利といつた所
に大きな意義があります。

卷 三

一、イマハ

卷一の卷頭に「ハナ」を置いた國語讀本は、今又此處に「イマハ」を置いてゐま
す。どこまでも花やかでバツとした明るい氣持が國語讀本の特色です。時は四
月、春風駘蕩、花笑ひ鳥歌ふの好時節です。讀者は既に一ヶ年の螢雪の功を積
んで新しい學年を迎へ、春草の萌え出るが如き暢びくとした氣持で讀本を手

にします。その開卷第一の「イマハ」です。前學年の終りに來らん春の晴やかさを「サクラ ガ サク ノハ コレカラ デス。 ナ ノ ハナ ガ サク ノモ、コレカラ デス」と懂がれてゐた其の「イマハ」です。

卷三は「イマハ」を巻頭にして「ハヤオキ」といひ、「ヒヨコ」といひ、「うちの子ねこ」といひ、斯うしてだんく頁を繰つて見ますと、優味のある子供々々らしい教材ばかりです。全十二巻を通じて此巻ぐらゐる優美な巻はありますまい。

本巻は平假名を授けるといふのが大きな任務で、最初の二三課には片假名文を讀ませる間に其の主な言葉を抜出して、それを平假名で上欄に摘出してあります。斯うして始めの三課で三十一字の平假名を授けて、第四課の「うちの子ねこ」に至つて、思ひ切つて平假名文を出してゐます。

二、ハヤオキ

早起の快味を叙したものです。春は曙と清少納言もいつたやうに春の朝の氣持は亦一入です。所は町外れの工場の邊り、主人公は尋常二年、いつも兄さん

に先を越されるので、今日こそはと元氣を出してソツと床を抜け出したのです。主人公の茶目氣分が文を彩つて讀者の興味を唆つてゐます。工場の汽笛で全文を統一してゐる所を味つて見たいものです。

三、ヒヨコ

鶏の習性と雛の可愛らしい有様を叙したもので、立派な理科的教材です。親鶏に卵を抱かせてから卵が孵つて雛になるまでの有様を日記風に書いたもので、雛の生立ちの記とでもいふべき形です。文學味もかなり濃厚で理科的教材としては申分のない教材でせう。

四、うちの子ねこ

平假名文の初めです。これまで三十一字の平假名を授けた事になつてゐます。三十一字の平假名を授けて、ぶつつけに平假名文を出したのは此の讀本が初めです。これからの數課は新しく授ける平假名を上欄に摘出して、丁度漢字を授けるやうな考で取扱はせようと云ふのであります。

此の課は平假名文の初めで、しかもまだ平假名五十音を學び終つてゐないの
でありますから、特に韻文の形を取つてゐます。韻文は文字の数が少く、且つ
同じ言葉を幾度も繰返すことが出來ますから、此の期の平假名文としては理想
的な形です。七七調の手毬歌式の可愛い韻文で、既習の平假名を巧みに利用し
て、僅に六字の新字を授けるだけで此の韻文が出來てゐます。初めての平假名
文といふので既に子供の興味を引き、尙その内容が可愛い子猫と來てゐますか
ら、子供も屹度興味に唆られて思はず讀み浸るに違ひありません。

五、お花

平假名文の二回目で文學味たつぷりです。趣意書には修身的教材となつてゐ
ますが、教訓に墮しないでどこまでも文學味を味はせることに主力を注ぎたい
ものです。

六、ゆびのな

文學的教材です。

舊讀本にあつたのを種にして書き直したもので、前半は殆ど舊讀本其の儘で
す。指の名を題材に取つて祖父と孫との對話に仕組み、一家團樂の平和な生活
を描き出さうといふのです。ですから指の名は單なる題材で教材の狙ひどころ
は團樂の生活です。指の名によつて平和な生活を描き出したところに言ひ知れ
ぬ味があります。

七、かんがへもの

一種の文學的遊戯で練習文の形になつてゐます。謎や考へ物は從來の讀本に
も出てゐましたが、しかし此の形はちよつと變つてゐます。問ふ者と答へる者
とがあつて、解答者は出題者に對して質問を試みながらそれを據りどころにし
て解答を試みようとしてゐるところに面白味があります。

八、わらびとり

やはり文學的教材です。蕨取に題材を取つて田園趣味を鼓吹しようといふの
です。そこには春の暢んびりした氣持があり友情の濃さがあります。

九、竹の子

理科的教材です。

竹の子を見て其の成長の有様や竹の効用などを述べようといのです。二三日見ないうちに竹の子がこんなに出了、竹の子の成長は速いものでもう私の丈よりも高くなつた、此の竹の子が大きくなつたら竿竹にもならうし、竹馬にも拵へられよう——といった筋で、そこには山家の初夏の氣持も満ち溢れてゐます。

十、きやうだい

在りふれた事ですが其處に却つて味があります。雨上りのすがすがしい初夏の朝です。木々の縁は滴らんばかり、葉末の露はきら／＼、光つてゐます。姉と弟の二人は楽しげに打語らひながら學校へと急ぎます。傍で見ても羨ましいやうな仲の好い姉弟です。ゆうべの雨で路はひどい泥濘、水溜を避けながら急いで行くうちに弟は思はず足を滑らせました、あつと叫んでよろめくのを姉

は素速く手を借してそれを庇ひました。庇つた拍子にぶつりと下駄の鼻緒を踏切りました。あらツと途方にくれてゐると弟は腰に挟んだ手拭を取つて端を引裂き姉さんこれをと差出しました。姉は手早く緒をたて、汚れた手を小川の水で淨め顔見合せてにつこりました。さあ行きませうと姉弟は又楽しげに打語らひながら學校へと急ぎます。姉は弟を弟は姉を、互に助けつ助けられつして行く美しい情景が此の詩の内容なのであります。

十一、五一ぢいさん

修身的の教材ですが斯う行けば申分はありません。頗る平民的な題材でこのぢいさんの生活こそ眞に感激の生活です。趣味と職業とが合致して働くことが楽しみなのであります。五一ぢいさんには働くこと以外には生活がありません。所謂一元生活です。趣味と職業とが合致しますと、もう何の煩悶もなければ焦慮もありません。慾もなければ得もありません。朝から晩まで粉だらけになつて働いても些とも不平が起きません。働くこと其の事が楽しみなのであります。

此の教材はそこらを狙つたもので、一元生活の嚴肅味を讚美したところに言ひ知れぬ味があります。

十二、右と左

文學的教材です。右と左を各方面から説明してゐます。何でもない事のやうですが此の時期の子供には間違ひ易いもので、右といつた時左を出したり、左といつた時に右を出したりするのはよく見ることです。後の「四方」と共に常識教材として是非なければならぬ教材の一つです。

十三、まはりつこ

前課と密接な連絡があります。前課で右と左を知らせて此處では其の應用といつた形です。教材の質は修身的教材になつてゐて、「急がば廻れ」の教訓を暗示してゐます。練習文になつてゐて、前課の隋力で一気に讀破させ、此の戯曲味を味はせようといふのであります。斯うして一寸目先を變へておいて次の浦島太郎の長篇に入らうといふのであります。

十四 うらしま太郎

優美でしかも變化に富んだ好い童話です。その上品で神韻の渺々たるところに言ひ知れぬ味があります。童話の裏には動物を虐待してはならぬとか、善い事をすれば善い報が來るとかいつた教訓的の意味も含まれてゐないではありませんが、併しそれは此の童話の目的ではありません。童話としては其の詩的空想的なところに生命があるので、教訓の如きは唯それとなく感得させるといふ位のことと結構です。國民の詩的な一面を代表したものととして浦島は實に好個の兒童文學であります。

十五、四方

長篇の次の短篇です。「うらしま太郎」の大きな題材で頭を使つた後の息抜かです。文は僅かに一頁、出来るだけ簡潔に書いてのけたところを買つて見たいものです。

十六、私の村

教材の内容と其の展開

これも地理的教材です。學校の北にある小高い丘の上から自分の村を見下して、主な地物を指して説明するといった形になつてゐます。前課の「四方」の應用とも看做すべきもので、方位を知らせると共に日毎に發展しつゝある村の有様を物語らせようといふのであります。

十七、一口ばなし

三種三様、いづれも可笑味たつぷりです。一は早合點、二は無智、三は知つた風、三つとも可笑味の中に可なり深刻な諷刺が含まれてゐます。

十八、をの の たうふう

歴史的教材で根氣は成功の基だといふ教訓を暗示してゐます。教材の出所は趣意書にもあるやうに俗傳で、竹田出雲の手になつた淨瑠璃の「小野道風青柳硯」に據つてあります。

十九、セミ

理科的教材ですが文學味も可なり濃厚です。

蟬は子供の好いお友達です。暇さへあれば竿を擔いで蟬を追廻します。その蟬を題材に取つて研究心を唆らうといふのであります。殻を脱いで蟬になるまでの有様を見た順序に記したもので、一刻々と脱皮して行く有様が見るやうです。

二十、ささ舟

純文學的に出來た教材です。子供が笹舟をこしらへて川に流して遊んだといふ綺麗な場面で、そこには澄みきつた空、柔かな日の光、そよくと吹く風、透き通つた小川などが背景となつて、文學味を一段と引立てゝゐます。全文氣持のよい現在調を用ひ、情景を讀者の眼前に展開させ、尙「ささ」が「さらさら」といひ、「さつと ささ の 小えだ を」といひ、頭韻や聲喩を巧みに操つて詩趣を添へたあたり、可なり精練された筆致です。

二十一、水デツパウ

理科教材の讀本化です。此の卷には好い題材が澤山あります。「セミ」といひ

「ささ舟」といひ、「水デツバウ」といひ、何れも子供に相應しい題材で、しかも讀ませて置きたい教材ばかりです。子供にはこんな遊びが欲しいものだと思ひます。都會の子供はあまり便利過ぎて却つて禍されてゐます。笹舟を拵へて流したり蟬の脱皮するのを眺めたり、水鐵砲を拵へて遊んだり、田舎の子供は自然の恩恵に恵まれてゐます。

二十二、 蟲ぼし

蟲干は我國特有の國民行事で、平素大事に仕舞つてゐる物も此の時だけは出して風を通します。古い掛物が出るし大事に仕舞つてゐた甲冑や刀劍なども出ます。ふだん滅多に着ない羽織袴も出ますし餘所行の晴着も出て來ます。お祖父さんやお祖母さんの出ればお父さんやお母さんの出ます。此の教材は家中の人の着物が座敷中にひろけてあるのを見て、あれがお父さんのでこれがお母さんの、あちらのは祖父さんこちらのはお祖母さんと指しながら、着物の名稱や柄柄や色合などを話させようと云ふのであります。主人公は女の見で蟲干

氣分の濃厚に描き出されてゐるところを味つて見たいものです。

二十三、 カウモリ

例のイソツブです。舊い讀本には卷五に出てゐましたが、少し程度を下けて此の卷に引下けてあります。

蝙蝠を比喻の對照に取つて事大主義を諷したもので、主義主張がハツキリしないでどつちにも附かない灰色の行動を嘲つたものです。教材の種別は無論修身的教材です。

二十四、 十五や

文學味に充ち満ちた教材です。美しい月を眺めて嫁入してゐる孫娘の事を思出したあたり、眞に情景一致です。「三五夜中新月色、二千里外故人心」の詩趣が此の文の生命なのであります。

二十五、 ふじの山

富士は日本の靈山で、これあるは日本の誇です。雲表にそより立つ其の雄姿、

莊嚴と申しませうか神秘と申しませうか、富士は古來國民の憧憬の的となつてゐます。

この詩はこの富士の崇高優美な姿を擬人化して歌つたもので、七五調の氣持のよい調子で其の雄姿を如實に歌ひ出してゐます。第一は高く雲表にそより立つてゐる雄々しい姿、第二は四時雪を頂いて白扇を倒に懸けたやうな秀麗な姿です。

二十六、はごろも

前課で富士の秀麗な姿を讚美して、それを大きな背景に取つて此處では羽衣の傳説を讀ませようと云ふのです。羽衣は三保の松原を舞臺に取つて、美しい富士を背景にしてゐるところに何とも言へない味があります。

卷 四

一、お祭

卷一に「オミヤ ガ アリマス。オテラ ガ アリマス」を出した編者は卷三に「蟲ぼし」を出し干した着物にお寺詣りとお祭とを聯想させ、今又こゝに「お祭」を出して鎮守祭の賑かさを叙し、更に「柿」を出して祖先崇拜の美風を鼓吹してゐます。配材の用意編者の苦心の存するところを十分付度して教材を活して取扱ひたいものです。

二、柿

前課は敬神、此課では崇祖、いづれも我が國民性の美點で内容上密接の關係があります。修身的教材と銘を打つてありますが、それと同時に立派な文學的教材です。修身といひ理科といひ、兎もすれば固苦しくて厭味を起すものが、斯う行けば申分はありません。どこかに駿臺雜話の老僧の接木といった句も濃厚で、修身の讀本化としては蓋し上乘のものでせう。

三、十月三十一日

本課は天長節の思出を叙したもので、國民讀本として是非なければならぬ教

材です。

全文過去調で前日を振返つて書いた所謂思出の形になつてゐます。思出の記は印象深く頭腦に刻みつけられた事で特に忘れんとして忘れ得ない場合の記述です。昨日の天長節が目出度さの極み楽しさの限りを盡して何うしても忘れ難い思出の一つだったのであります。それはやがて國民の總てが抱いてゐる喜びで、都も鄙も、大人も子供も、國中擧つてが祝ひ壽いだ忘れ難い思出でありませう。此の喜びを象徴し此の楽しさを具體化したものが此の教材なのであります。

四、麥まき

麥蒔氣分を歌つたもので、勞働精神が到るところに盛上つてゐます。趣意書には實業的教材と銘が打たれてゐますが、これはやはり文學的教材と看做した方が宜いかも知れません。文學味の濃厚な點から云つても確かに一頭地を抜いてゐます。

五、白ウサギ

十頁に亘る長篇で、筋を古事記に取り、大國主神の寛宏仁慈の徳を中心にして素戔しろうさぎの神話を面白く書き綴つてゐます。歴史的教材となつてゐますが寧ろ文學的教材と看做して取扱ふべき教材だと思ひます。幼學年の教材は殆んど文學的で、文學味を有しないものは教材として全然意義をなさないと謂つても差支はありません。随つて取扱も歴史的といふ言葉に囚はれて、理知のメスを加へたり教訓的に意義づけたりして、折角の教材を殺してしまふやうなことがあつてはなりません。神話はどこまでも神話で詩的空想的な所に味があります。ですから話の筋や人物を活躍させることに全力を注いで、唯面白く讀耽らせる間にそれとなく教訓を暗示するやうに仕向けなければなりません。

六、をぢさんのうち

小春日和の農家の暢びりした氣持を描き出した純文學的の教材です。

山を背にした片田舎の百姓家、小春日和の暖かな日足が座敷の中まで差込ん

である。家の人はみんな田圃へ出てお留守のお婆さんは日和ぼつこをしながら椽側で着物の繼をあてゝゐる。庭には一面に稗がひろげられ、庭の隅には山茶花が咲き目白が美しい聲で鳴いてゐる。前の畑には柿が眞赤に熟してきらきら光つてゐる。鶏と雀とが交るゝに食ひに来ては追はれて逃げて行く――

まるで繪でも見てゐる様な景色です。もう是れだけでも小春日和の長閑さが庭の隅から隅まで充ち満ちてゐます。

小山を越えてお使に來た少年三ちゃんは大きな聲で「今日は」と挨拶する。耳の遠いお祖母さんがぼんやりした目つきで少年を振り返つて「三ちゃんか」とにっこりする。何といふ好い情景でせう。お使を濟ませた少年は椽側に腰をかけてお祖母さんと並んで栗を食べてゐる。人の好ささうなお祖母さんは三ちゃんと話しながら時々思ひ出したやうに「ほうほう」と間抜けた聲を揚げて稗を食ひに來た鶏を追つてゐる。すると鶏よりも先に雀がバツと藏の屋根へ逃げて行く――まるで詩です。長閑な自然と美しい人情味とが渾然調和して其處に美しい詩

趣を織出してゐます。態と練習文の形にして文字の負擔を軽減し、この美しい情調を心ゆくばかりに讀み浸らせようといふのであります。

七、私 ども の 町

前課は山間の平和な農村、是は田舎の一小都會、彼は靜かな暢びりした氣持を味はせ、是は日毎に伸び行く活動の元氣を鼓舞してゐます。教材の分類は地理的教材となつてゐますが、それは教材の質から見たもので、取扱を意味したのではありません。随つて國語としては此の文に漾ふ氣分情調を第一義に置いて、思ふ存分讀み浸らせる間に内容上の目的を達するやうに仕向けなければなりません。教材は一人の子供が自分の住んでゐる町が漸次發展して、電燈が點き電話が架かり町の模様が日毎に變つて、暗い寂しい町が明い賑かな町に變つて行くのに對する喜を述べたもので、そこに發展向上の意氣が横溢し、華やかな文化の匂が濃厚に漾つてゐます。

八、山びこ

理科の立派な讀本化です。

筋をアメリカの讀本に取つて山彦なる物理的事實を面白く仕組み、それに軽い道徳的の色を附けてゐます。筋も至つて自然で無理がありません。すべてが子供の言ひさうな事であり子供の考へさうな事です。お父さんの説明も頗る解り易く子供に成程と合點させます。この教材の貴いところはこゝらで、理科的教材だといつて物理的説明に墮したり、教訓の意が潜んでゐるからといつて無理に道徳の押賣したりするのは絶対の禁物です。

九、フクロフ

是も理科的教材ですが、題材其のものが既に讀者を引付けます。形が滑稽に出来てゐて、しかも其の習性が他の鳥と全く違つてゐます。そこらを狙つて此の題材を取入れ、旨く讀本化したのが此の教材なのであります。夜出て他の鳥をいぢめた報ひに晝は他の鳥から虐め返へされるといつた邊り「己に出づるものは己に歸る」といつた軽い教訓も含まれてゐて、前課の「山びこ」と幾分の聯

絡が保たれてゐます。

十、日と風

イソツブの寓話です。威よりも愛、何といふ貴い暗示でせう。威力は人を制することが出来てもそれは一時的で、本當に人を信服させるものではありません。本當に人を信服させるものは愛です。慈悲です。「何、一まくりにして見せよう」と烈しく吹立てた風は、「やさしい かほ を 出して、あたたかな 光 を おくつた」お日様に負けなければなりません。恃むに足らない力を頼みにした風は、吹けば吹くほど豫期に反した結果を見せました。さうしてたうとう愛と慈悲との光の前に膝を屈して勝を譲らなければなりません。何といふ貴い暗示でせう。

十一、すすはき

煤掃も面白い年中行事の一つです。七頁にわたる可なりの長篇で、描寫的の筆致を交へ巧に煤掃氣分を描き出してゐます。主人公の少年が手傳の今吉と辨

慶牛若の眞似をしてふざけた邊り、ちよつと從來の讀本に見られない圖です。

十二、かきた取

「すすはき」で年を送らせた編者は「かるた取」で年を迎へさせてゐます。

正月早々に讀ませる教材に「かるた取」は好い思付です。殊に俚諺を中に織込み、尙ほ「いろは歌」を附加へた所など無理がなくて面白いと思ひます。

十三、ゑはがき

手紙の文の初です。

手紙の文を特に芽出度い年始狀で始め、しかも子供の興味を唆りさうな繪葉書によつて示さうとした編者の用意を村度したものです。

十四、お話 二つ

あつさりした嫌味のない一口話です。前のは「江戸自慢」後のは「二休譚」前者には三人三様、所謂「井中の蛙」の可笑味があり、後者には當意即妙、何處かに脱俗した超人的の面影があります。

十五、しひの木とかしのみ

譬喩が中心となつてゐます。擬人化せられた樫の實が存分にはびこつた椎の大木を見上げて、「今に見てゐろ」と緊禪一番奮起したといつたあたりには此の詩のねらひどころがあります。

十六、大工小屋

實業的教材となつてゐますが文學的色彩もかなり濃厚で、子供の生活も美しく描き出されてゐます。

大工は威勢の好い職業で、鋸の音や鋸の音や斧の音などが入交つて聞えて來るのは氣持の好いものです。殊に礎を築き、柱を立て、棟を上げ、屋根を覆ふ。總てが建設的で生々發展の意氣が充ち満ちてゐます。此の教材も斯うして意氣を背景にして、其の暢びくした氣持を存分に味はせたいといふのであります。

十七、扇のまと

教材の内容と其の展開

舊讀本にあつた教材に幾分修正を加へて出したものですが、幾度讀んでも倦まない教材です。源氏と平家の合戦は何處を取つても美しい劇詩のやうですが、この「扇の的」は亦格別です。

十八、山がら

子供の懐に飛込んで子供になりきつて書いたといつた教材です。真情の流露してゐる點から言つても、同情の念の溢れてゐる點から言つても、此の文は確かに成功した教材の一つでありせう。

教材は練習文の形になつてゐて、新字新語の負擔もなく、子供自身の力で思ふ存分讀み浸らせるやうに出來てゐます。

十九、ナゾ

鹽と砂糖を題材に採つた理科的教材です。「吾輩は猫である」式の自叙傳體で、擬人化せられたものが自分の身の上を謎の形で問掛けることになつてゐます。眞正面から行つたら嫌味たつぷりの教材を、斯うした形に文學化して、兒童の興

味を唆つたところに編者の苦心があります。

二十、一本杉

九頁に亘る長篇で本卷第一の雄篇です。一冊の讀本の中に斯んなドツシリした教材が二つ三つあると其の讀本はズツと引立ちます。さうしてそれが其の讀本の氣持を代表するから不思議です。此の卷でも前に「白ウサギ」があり、中程に「扇のまと」があり「一本杉」があり、卷末に「曾我兄弟」があります。これ等の教材が全卷を引締めて讀者に好い感じを與へます。

此の教材は趣意書の上では修身的教材といふことになつてゐますが、修身といふよりも立派な文學です。二百年の齡を重ねた杉の大木が野中に突立つて天を摩するが如き勢で四方に枝葉を伸ばしてゐます。東の村の者も西の村の者も此の大木に對して或神秘的な靈感を以て迎へてゐます。一本杉は野中に突立つて嚴然として村人を見下してゐます。其處には人が生れたり死んだり泣いたり笑つたりして、人生の無情、有爲轉變の世相が展開されてゐます。此の教材は

一本杉をして其の世相を物語らせようといふのであります。題目の「一本杉」が先づ讀者の興味を唆つてゐます。

二十一、汽車のたび

地理的教材です。移り行く窓の景色が主な部分になつてゐて、幼稚ながら紀行文の體を備へてゐます。地と詞とを旨く配して情味を含め讀者の興味を唆ると共に實感を喚起してゐるところなど可なり力が入つてゐます。時は早春雪消の頃、父と一緒に入營中の兄を慰問に出かけた少年、そこらの背景や情味が織込まれることに依つて此教材が一段と引立ちませう。

二十二、ヒナマツリ

五節句の一で昔は年中式日として禁裏でも幕府でも莊嚴な式典が行はれてゐました。今は廢止されて公の儀式ではありませんが兎に角意義ある國民風俗で、今後永く維持し且つ保存すべき美風であります。公式の行事から省かれ尙又太陰曆が太陽曆となつた關係などで、ともすれば忘れ勝ちな斯うした國民風俗が

讀本の教材となつて復活更生の意氣を示してゐるのは快心の至りです。

二十三、春が来た

一陽來復の歡びを歌つたもので、内容の美よりも形式美に勝つた韻文です。五五調の急迫な調子を疊みかけて、草木の萌出るやうな心の躍動を歌ひ出したあたりは何とも言へません。

第一聯では春が来た喜び、第二聯では花が咲いた喜び、第三聯では鳥の聲を聞いた喜び、何れも春に甦つた清新な天地に對する歡喜の聲です。生氣に充ち満ちた明るい世界に對する歡びです。叫です。

二十四、曾我兄弟

卷末を飾る一大雄篇、これで此卷がグツと締ります。教材は曾我物語の荒筋を平易に書きこなしたもので、長い事實を巧に料理し、しかも原文の句を濃厚に漾はせてあたりの手腕は眞に見上げたものです。

敵討が善いとか悪いとか、教材として適してゐるとか否か、色々な講

論もありませうが、兎に角人情味の濃厚な點から言つても、國民性の根強く融け込んでゐる點から言つても、棄て難い美談の一つでありませう。

卷 五

一、大日本

卷頭第一に金甌無缺の我が國體を讚美してゐます。卷五六は殆んど此種の教材によつて一貫されてゐまして、卷五の卷頭「大日本」は卷六の卷末「伊勢參宮」と相呼應し、其の間に卷五では「大蛇たいぢ」「金鵝勳章」「熊襲征伐」「養老」、卷六では「神風」「千早城」「萬じゆの姫」など何れも國體の尊嚴と國民の克く忠、克く孝の美風を物語つてゐます。

この詩は 五五、七七、七七 の莊重な叙情詩で、金甌無缺の我が國體の精華を高らかに歌ひ出してゐます。森嚴な内容を雄大な口調で表はしてゐる所から言つて、律格の高いことは讀本韻文を通じて最も傑出したものと推賞し得ら

れませう。

二、中村君

文學的教材です。轉校生の中村君のことを其の組の級長の山田君が書いたといつた形で、種はエドモンド・デアミースのクオレです。

種が種だけに頗る味のある教材です。新たに級友を得た時の印象もハツキリと描かれてゐますし、新來者のおどくしてゐる有様もよく描かれてゐます。

殊に級長の山田君の男らしい態度を躍如たらしめたあたりは何とも言へません。

三、大蛇たいぢ

神話です。記紀の中でも一番興味を惹くところで、鎮守の森の里神樂などでよく見る園です。出所は古事記で、原文を其の儘口語譯した形です。

弱きを助け強きを挫くのは我國民性です。酒を盛つて大蛇を酔はせて苦もななく退治した命の沈勇習謀、尾を割いて得た寶劍を私しなかつた公明無私、それ等は何れも我が民族性の美點です。神話は我が國民性の象徴で、我が民族精神

を具體化して示してゐる所に大きな意義があります。

四、松太郎の日記

少年松太郎の日記の形にして、土曜から始めて金曜まで丁度一週間分の日記を出してゐます。中には友達から来た手紙もあれば、放れ馬に出會つたといふ話もあり、ボチが病つたといふ話もあれば、教室に雀が飛込んだといふ話もあります。斯うして子供の生活にあちさうな事を抜出して来て、日記の形を知らせると共に快調な少年の美しい生活を想像させてゐます。兎に角好い思ひつきで、日記も一つ位はあつて然るべき教材でせう。

五、金鵒勳章

前課と連絡させて海軍のをぢさんの話に仕組んで金鵒勳章の由來を物語らうといふのです。全文詞だけで出来た對話文で、をぢさんの詞には常體を用ひ、甥の松太郎の詞には敬禮を用ひてゐます。特に練習文の形にして新字が一字も出してありません。内容が内容で相當手数を要しますので、形式の負擔を輕め

て内容に力を専注させようといふのであります。

六、鯉のぼり

女の子の雛祭に對する鯉幟で威勢の好い教材です。雨あがりのすつきりした初夏の氣持を背景にして、思ふ存分に風を吞んで空に泳いでゐる鯉幟は、向上發展の意氣を象徴したもので、男の子の將來を祝福してゐます。

七、大賣出し

女兒向の教材です。どの巻にも女兒向きの教材が一つ二つ入れてあります。尋常小學は男女共學の所も多く、別段女子用といつた大袈裟なものゝ必要はありませんが、しかし男兒に適當した教材があれば女兒にもやはり女兒向き教材が無ければなりません。無論男兒向きのものは男兒、女兒向きのものは女兒といつたやうな際立つた取扱は甚だ面白くありませんが、幾分そこに手加減を加へておきたいといふのが編者の用意なのであります。

此の教材は所謂實業的教材で大賣出の有様を書いたものです。町の呉服屋で

大賣出があるといふので、其の日を心待にしてゐた娘の子がお母さんと一緒に其の店に行つて大賣出の賑かな有様を見て書いたといふ形です。對象が呉服屋で女の目を引き易い物ばかりですから、どちらから云つても確かに女兒向きの教材でせう。

八、ツバメ

理科的教材ですが文學味も頗る濃厚です。説明が説明になると筋道は立つて事柄はハッキリしますが、修辭上の技巧を施す餘地がなくて無味乾燥に陥ることが屢々です。此の文は能く其の缺陷を補つて、説明に色をつけ巧に文學味を添へてゐる所に特色があります。

九、私のうち

一は山間、二は水邊、三は都會、三つともそれ／＼の趣があります。初のは村外れの一軒屋、中のは見晴しの好い郊外住宅、終りのは大都會の眞中にある店家、それ／＼變つた場面が描かれてゐます。

十、遠足

地理的教材です。固有名詞を澤山入れた所に特色があります。平尾山が出るし、大手橋が出るし、八幡様が出るし、三猿の立石が出るし、何だか據所がある様ですがみんな假作です。

或學校の遠足を想定し子供の經驗にありさうな事柄を抜出して、遠足中見聞した事を子供の氣持を基調にして書き綴つたといふ形になつてゐます。

十一、熊襲征伐

出所は古事記で、原文を其の儘平易に譯したといつた形です。本卷は尙武の卷といつても宜い位に元氣の好い教材が澤山あります。「大蛇たいぢ」といひ、「金鵝勳章」といひ、「鯉のぼり」といひ、「熊襲征伐」といひ、「八幡太郎」といひ、何れもさうです。尋三の此の頃は恰度こんな教材を歓迎する時期で、勇ましいパツとした教材が子供の趣味にピッタリと合ひます。

原文は古事記中卷の中で最も生彩に富んだものとして定評ある條で、尊が勅

命を奉じてはるばる九州に御下りになり、熊襲の巢窟に入つて其の首魁を刺殺し熊襲を征服されたといふ勇ましい武勇談、しかもそれが御年僅に十六歳であつたといふ所に少からぬ興味を唆りませう。

十二、一口話

在來の笑話です。あつけない話のやうですが併し能く味つて見ますと大きな暗示が含まれてゐます。日本一の事を工夫したと言ふから何か大発見でもしたのかと思ふと、米を搗くの上に白を逆さにして吊して置けば杵の上げ下げに米が搗けると言ふ。上の白に何うして米を入れるかと突込まれると、それはまだ考が着かないと首をぢぢめる。ちよつと思付いたことを能くも考へないで偉さうに吹聴するのはよく有ることです。早呑込して思はぬ失策をし出かして世間の人の物笑になつたといふ話はザラにあります。

十三、蠶

日本は何と云つても蠶業國です。輸出品の大部分は生糸で、生糸を除いては

外國相手の國産は殆んど無いと謂つても宜いのであります。此の教材は其の蠶業の趣味を物語つたもので、蠶が上り始めてから、スツカリ上つてしまふまでの数日間の有様を叙してゐます。桑を摘んだり温度を考へたり、天候を氣遣つたりして、一家擧つて夜の目も眠れないやうにして働いた數週の後には、美しい繭になつてみんなの努力は立派に酬ひられる。養蠶は確かに興味のある職業の一つです。

十四、雨

理科的教材となつてゐますが、地文學的の知識が背景になつてゐますので、地理的教材と見ても差支はありません。雨水の行方とでもいふべき所で、降續く長雨に外にも出られないで、窮窟さうに外を眺め、降つてゐる雨を見てあの雨は一體何處へ行くだらうといつた疑問から、心に問ひ心で答へるといふ所謂自問自答の形に成つてゐます。

十五、養老

教材の内容と其の展開

正史にも出てゐる名高い傳説です。これが爲に養老と改元され、尙又わざわざ御行幸まであつたと云ふのですから、孝行美談としては折紙附のものと謂つて然るべきものでせう。原據は古今著聞集で殆んど原文其の儘を平易に書直したやうな形です。

十六、日本三景

地理的教材としては是非なければならぬ題材の一つです。國民性の涵養から云つても國土禮讚の趣旨から云つても、三景は無くならない教材なのであります。

松島、橋立、宮島は古來三景として讚美されたもので、三景は實に日本風景を代表したものと謂ふべきでせう。しかも其の三景が何れも海に因んでゐるといふのも、海國日本として頗る意義あることだと言へませう。

十七、虹

純文學的の教材です。

虹は自然現象の中で最も美しいものゝ一つです。天の一方から一方まで大きく曲線を描いて、七色の極彩色で飾られた虹の懸橋。しかも忽然として現れ忽然として消失する。子供ならずとも自然の神秘に驚異讚嘆の聲を放たなければならなくなります。此の詩は其の虹を題材に取つて、其の雄大、其の優美、其の神秘に、驚異感嘆憧憬の情を歌つたものです。

第一では「あれく、虹が立つてゐる」に始まつて、「だれがかけたか、虹の橋」、第二では「さてく、虹は美しい」に始まつて「だれがかいたか、虹の橋」、第三では「さてく、虹はおもしろい」に始まつて、「だれが渡るか、虹の橋」、第四では「あれく、虹がきえて行く」に始まつて、「だれかけたか、虹の橋」、感嘆驚異に始まつて神秘的な憧憬に導いたところに言ひ知れぬ味があります。

十八、峠から町へ

地理的教材になつてゐます。峠から村や町を見渡して眼下に展開する田や畠や、森や林や工場やお宮などを指さして、問ひつ問はれつする間に村や町の發

展や生業の盛衰などがそれとなく暗示されてゐる所に此の教材の面白味があります。

全文は次の「用水池」の序説とも謂ふべきもので、前半には農業が盛で米がよく取れ、工場も出来、生絲も取れる。斯うして村は日増しに榮えてゐるといふ事を暗示し、後半には其の繁榮は主として村の生命ともいふべき用水池のお蔭であることを物語つて、次の用水池物語の伏線と成してゐます。ですから此課は一面次の課を呼起す爲の枕ともいふべきもので、次の課と立派な續き教材となつてゐるところに用意があります。

十九、用水池

本卷中堅の雄篇です。一村の貧窮さを永久に救済しようとして、千辛萬苦、數度の失敗を事ともせず、村民の罵倒迫害を事ともせず、私財を投じて遂に大事業を完成した庄屋の犠牲的精神を物語つたもので、前課と連絡して全文作太郎の父の談話の形になつてゐます。公共的犠牲的精神、不撓不屈、堅忍持久の

意氣は國民の貴き心の糧なのであります。此の教材は作太郎の父の口をかりて、此の庄屋の苦心と根氣と、公共の爲に盡くす犠牲的精神とに深い感激を起させようと云ふのであります。

二十、八幡太郎

歴史的教材で練習文の形をなしてゐます。此の教材は義家の慈悲と大度とを狙つたもので、義家が絶対に信じ切つた寛容大度が敵將宗任を包擁して遂に敵意を捨て、心服しなければならぬ所に意義があります。名高い國民傳説で、名將にして弓の名人、風流にして仁慈、特に襟度の犬を以て稱せられた義家の風采の躍如たる所に言ひ知れぬ味があります。

二十一、水見舞

本卷唯一の日用文で文學的教材です。日附宛名などの整つた形は此處が初出です。

此の教材は日用文の形式を知らせると共に、其の形式の中に卷込んで大洪水

の物凄い有様を想像させた所に特色があります。前半は水見舞で後半はそれに對する返信の形です。

二十二、郵便函

どうせ一つは無くてならない國民的教材です。それを斯う文學化したところに編者の用意があります。「一本杉」と同じ自叙體で郵便函を擬人化し、それを中心にして色々な人事を配して面白く戯曲化してゐます。諷刺もあれば教訓もあります。フ、と吹き出すやうなところもあればホ、ロリと涙を落すやうなところもあります。郵便に關する一通りの知識を與へると共に、此の戯曲味を心ゆくばかりに味はせたいといふのであります。

二十三、一足々々

ちよつと珍らしい教材です。一句々々が俚諺や格言めいてゐて、含蓄に富んでゐる點から言つたら他の長篇に匹敵します。前の四句は俚諺風でどこかに川柳らしい味があります。後の二句は立派な格言を含んでゐて全體を力強く引締め

てゐます。前半は八音七音五音になり、後半は七音五音に成つてゐて、しかも二句宛で一文を形づくり、前句は中止、後句を終止で語句を整へてゐます。切れ／＼になつてゐるやうで、しかも一貫した思想で統一されてゐます。六句が六句とも同じ教訓を意味してゐますから、一句を讀み、二句を讀み、三句四句と讀進んで行く間に教訓の意がだん／＼深まつて來て、ぐん／＼讀者の胸を衝くところに言ひ知れぬ味があります。

二十四、ブダウ

理科的教材で子供の綴方にでもありさうな書振です。主人公の子供が庭に出て葡萄棚を見上げながら、美しい薄紫色の實が房々と下がつてゐる有様に恍惚として、我が家の葡萄の出來映を喜ぶと共に、叔父さんの家の葡萄のことを思出したり、葡萄の種類や效用など、それからそれへと聯想してゐるといつた形です。

二十五、熊のさゝやぎ

修身的教材で出所はイソップです。二人連で山中を通りかゝつて熊に出會つたといふ話で、題材其の物が既に子供の興味を唆りませう。話に含まれた諷刺も友人間の情誼で、ふだんには親切さうにチャホヤしてゐた友達が、驚破事だといふ場合に友達を見捨て、我が身の安全を圖つたといふあたり、此の年頃の子供に恰度好い教訓でせう。

二十六、東京停車場

巻頭に「大日本」を据えて巻末に「東京停車場」を置いた編者の用意を忖度したものです。首尾相應じて發展的興國的意氣を鼓舞しようといふのです。明快な説明と簡潔な筆致で帝都の大立關東洋一の大停車場の壯觀を描き出してゐる所を味つて見たいものです。

卷 六

第一、俵の山

實業的教材ですが文學味もかなり濃厚です。

米の收穫期に於ける農家の半日を子供の氣持で叙してあります。去年よりも七八俵餘計に取れたと喜ぶ父母の楽しい朝食時の話を聞いて、子供ながらも嬉しさに堪へないで、やがてみんなが田園へ行つたお留守居に、お祖父さんと二人、ソワ／＼した氣持で打ち語つてゐる少年の面影が想像されて、何とも言へない氣持がします。收穫期に於ける農家の喜びと、半歳の勞苦に酬ひられた感激の氣持にひたせると共に、取入の有様をざつと紹介しようといふのです。

第二、日本の高山

地理的教材を文學的に取扱つた所に編者の用意があります。先づ内地の高山から新領土の高山に及ぼし、更に世界の高山を挙げ、山は高きを以て誇としなといつた或る大きな暗示を以て文を結んでゐます。全然對話だけで出來てゐて、弟が問ひ兄が答へる、斯うして劇的に面白く仕組んだところに編者の作意があります。

第三、ヤクワン ト テツピン

薬罐と鐵瓶との論争の形で一種の面白い擬人劇が仕組まれてゐます。兩者の主張は何れも議論的色彩を帯び、理路明白に自己の優越した點を主張しようとしてゐます。随つて之を真正面から行きましたら當然議論文の形となるべきでありませう。議論文の形となるべきものを斯うした劇曲に仕組んだ所に編者の用意があります。

第四、きのこ取

文學的教材で茸取の楽しみを叙してゐます。山村の風致と人情美とが能く調和して、一種の趣味と潤ひとを感じさせます。木挽の力藏を點出して文に變化を附けてゐる所も面白いし、民謡の木挽唄を出して文學味を添へたあたりも氣が利いてゐます。兎に角文學味の濃厚な點から言つたら本巻第一といつて然るべきでありませう。

第五、海

海の壯絶と平和との微妙な姿を描いたもので、動靜兩面を並べて出したところに編者の用意があります。一は時化、二は風、一では海の荒れてゐる物凄い有様を物語り、二では海空一碧の平和な姿を讚美してゐます。

第六、くりから谷

幼稚な子供に讀ませる歴史物としては非常に面白く出来てゐます。此の時期の子供は戦争物を非常に愛好してゐまして、戦話や英雄談に特段の興味を持つてゐます。此卷ではそこを狙つて特に斯うした方向の教材を多分に織込んで此の興味に投じたいとふのであります。「弓流し」といひ、「神風」といひ、「千早城」といひ何れも戦話で、少々性質は違つてゐますが「萬じゆの姫」なども其の部類に屬してゐます。

第七、霜

長篇の次の短篇です。大物の次には大概斯うしたあつさりしたものを配するのが讀本全巻を通じての論者の用意なのであります。

小品文で常體の初です。題材に相應しい文體を選んだ所を以つて見たいものです。行を改めて書いたのも此の文の特徴の一つです。

第八、虎 と 蟻

修身的教材で弱い力でも協力して仕事をすれば屹度大きな仕事をする事が出来るといつた教訓を暗示してゐます。虎が自己の力を持って傲慢に構へたのに對して、蟻は自己の微力を知つて能く協同して此の大敵を斃したといつたあたり此の教材の狙ひどころがあります。

第九、町の朝

文學的教材で練習文です。朝早く父と一緒に家を出た子供が停車場に着くまでの間に見た町の光景を寫生的に叙したもので、夜の眠からだん／＼目覺めて活動に入る早曉の氣持を味はせたいといふのです。爽快で元氣に充ちた所に此の文の味があります。

第十、弓流し

これも戰話です。原據は平家物語で卷四の那須與一の次に出てゐる話です。昔の武士が命を賭しても名譽を重んじたといふこと、此の名を借しむ心があつて武士の體面が保たれたといつたあたりに大きな教訓が含まれてゐます。

第十一、入營した兄から

國民科的教材で兵營生活の一斑を紹介しようといふのです。兵役の義務を斯うした手紙に仕組んだ所に編者の用意があります。全篇兄らしい氣持が漾つてゐる讀んでゐるうちに何時となく引付けられるやうな氣がします。この力は手紙の獨自性ともいふべきもので、此の力を借りて温かな親しみの中にひたせながら兵營生活の一般を紹介しようといふのであります。

第十二、笑ひ話

一口話です。一は狂言、二は落語、どちらも可笑味たっぷりです。一口話の特色として結句に骨を刺すやうな可笑味があります。

第十三、鮭

理科的教材の讀本化です。ちよつと備忘録といった形で、ノートに手記した手控を其儘讀本に載せたといふ形です。讀本らしい味のある教材で理科教材も斯う行けば立派な讀本教材です。

第十四、冬の夜

目先を變へてこれは冬の夜の情調を歌つた詩です。固苦しい説明文を讀ませた揚句に、一寸目先を變へて冬の夜の情趣を味はせて、それから本巻第一の長篇「萬じゆの姫」を讀ませようといふのです。配材の妙、編者の用意のあるところを味つて見たいものです。

第十五、萬じゆの姫

本巻第一の長篇です。原據はお伽草紙の「唐絲草紙」で足利時代に出た通俗小説の一つです。萬じゆの姫を中心にして其の至誠至孝を涙ぐましいばかりの筆致で叙したあたり、讀本中に於て儘かに出色の教材の一つでせう。

第十六、磁石

長篇でウンと頭腦を使はせた後に、目先を變へて此課は面白い磁石遊び、心機一轉、氣持もきつとすつきりしませう。教材の筋は弟が火鉢の中に釘箱をひっくり返したので、叔父さんからお年玉に貰つた磁石で灰を掻きまはして拾ひ上げたといふのです。編者はこゝらでお正月を迎へさせようといふのでせう。

第十七、けんやくと義捐

儉約と吝嗇とは兎もすれば混同され勝です。儉約を尙ふ反面に動もすれば吝嗇に走る徒輩も尠くないし、吝嗇を卑しむの餘り儉約をも卑しいものと考へる淺理漢も尠くありません。兩立して始めて意義ある儉約と義捐とか片務的に孤立すると飛んでもない間違が起きます。此の教材は一見相反したやうな儉約と義捐とを捉へて面白く構想した所に言ひ知れぬ味があります。

第十八、賀茂川

京都の趣味は低徊味にあります。見るもの聞くものゝ總てが歴史美に彩られてゐます。筆者は三條大橋の上に立つて上流下流を見廻はし、見える限りの京

都を題材に取つて、今と昔とを對照しながら人文の發達風俗の變遷を潤のある筆致で巧に紹介してゐます。

第十九、メリンス

姉と妹との問答の形で絹綿麻毛の四種の織物が話題に上つてゐますが、中でも特に毛織物のメリンスが話の中心となつてゐます。地無し of 脚本式で説明文の變形です。姉が聞いて妹が答へる。言外に頷く妹の姿も想像されて餘情たつぷりです。

第二十、氷すべり

原案は種を兒童作に取り、子供の氣持に浸つて筆を執つてゐます。一段は湖の氷が厚くなつたこと、二段は日曜の人出、三段は色々な階級の人々がスケートに來てゐること、四段は皆が楽しくこつてゐることの順序に筆が運ばれてゐますが、言葉も碎けてゐますし、感じも好く出てゐます。引締つた力強い氣持の好い教材です。

第二十一、神風

伊勢の神風、聞いただけでも好い氣持がします。まして十萬の元寇が悉く海の藻屑となつたといふ、何たる痛快事ぞ。原據は竹崎次郎繪詞及び八幡愚重記で、至誠神に通じて此の天佑を得たといふ所に編者の作意があります。

第二十二、象

前には「神風」があり、後には「千早城」が出ます。其の間の息抜かしに一寸目先の變つた教材です。見世物小屋で見た象の形態や習性を子供に話させるといふ仕組で、輕快な艶のある説明文です。珍客を眼前に控へて、それから流れて來る平和寛厚の親しみ深い氣持に浸らせたいといふのであります。

第二十三、千早城

忠臣の典型にして古今の名將たる正成の千早籠城の有様を叙したもので、遙かに義貞の鎌倉打入と相呼應してゐます。

第二十四、記念の木

記念木のローマンスです。村の學校を中心にして、戦死した愛兒の在りし昔を追懐した老爺の氣持を歌つたもので、そこには平和な落着いた農村の背景が聯想され、老いた農夫が鋤を杖突いて遠く落ち行く夕日に眼を送つてゐる面影も想像されて、何とも言へない餘情に唆られます。

第二十五、芽

なんて良い教材でせう。そこには陽春の晴やかな光があり、物皆長閑な生々の氣が充ち満ちて、天地は平和の氣に溢れてゐます。萬物が自然の氣に觸れて、日毎に伸び行く姿は兒童の生活其の物の象徴でなくて何でせう。

第二十六、伊勢參宮

「神風」を出して天佑の神秘を暗示した編者は、こゝに「伊勢參宮」を出して美しい國民性を物語つてゐます。それがやがて卷五卷頭の「大日本」と遙かに呼應してゐる所など、配材の用意の存するところを忖度しなければなりません。

卷 七

第一、世界

卷頭第一に「世界」を出してゐます。卷五六では國勢の現状を知らせ、卷七八では更に發展して遠く眼を海外に放たせ、世界の現状に通ぜしめようといふのであります。

第二、長き行列

集團の偉觀から其の力の偉大なことを想はせたもので、「億兆心を一にして」の御聖訓の御趣旨を具體化したものとも見られませう。遙かに卷五の「大日本」と相呼應して、國民は一致團結して國の發展に努めなければならぬといふ強い自覺を喚起さうといふのであります。

第三、横濱

卷頭に「世界」を出した編者は此處に世界相手の港として「横濱」を出してゐま

す。横濱の大を物語るのは日本の大を物語るのです。横濱は日本の商品の捌口で恰度漏斗のやうな位置にあります。此の港を潜つて日本の重要産物は外國に向つて流れ出るのであります。編者はこゝらを狙つて此の題材を選び、生糸や二羽重の輸出先を明かにすることによつて氣宇を大ならしめようといふのであります。

第四、潮干狩

潮干狩は面白い樂みの一つです。近所隣を誘ひ合せ、一家擧つて海邊に出かけて行く、其の賑かさは亦一段です。此の教材は東京附近の潮干狩の光景を叙したもので、隅田川を下つて品川羽田あたりに出かけて行つたつもりで筆が執られてゐます。

第五、れんげさう

やはり文學的教材です。練習文の形にして新出文字が一字も出してありません。文は叙景風に出来てゐますが、説明の色彩が頗る濃厚です。蓮華草の性しやうの

強さや花の姿の優しいことなどを述べ、特に遠望した集團美を描き出した所に編者の作意が仄めいてゐます。

第六、鎌倉攻

楠公の「千早城」に對して是非無くてならない教材の一つです。稻村崎の奇瑞を中心として鎌倉討入の壯快な一場面を叙したもので、神秘を含んだ趣味の多い戦物語です。

第七、傘松

ローカルカラーを發揮した文學的教材です。前には「れんげさう」で地藏尊や辻堂を出し、今又「傘松」によつて地藏尊や一軒茶屋や古塚や馬頭觀世音などを出してゐます。何れも懐しい田舎氣分の現れで詩趣が至るところに充ち溢れてゐます。

第八、馬

理科的教材で理科の讀本化です。前課の馬頭觀世音と軽い連絡が保たれてゐ

ます。新出文字も多いし文も引締つてゐますから、讀解には可なり骨が折れませう。適宜肉を附け情味を添へて取扱ふ工夫が大切でせう。

第九、大阪

大阪と神戸を合叙した形です。横濱を詳しく書いて神戸を簡單にしたのは文の形を重んじたもので、兩者の間に優劣を附したものではありません。神戸と横濱はどちらも世界相手の港として我が外國貿易の上に重要な位置を占めてゐます。横濱は輸出に於て主位を占め、神戸は輸入に於て主位を占めてゐます。出口は横濱であり入口は神戸だとも言へませう。さうした重要な位置にある神戸ですから無論横濱と同様に取扱つて然るべきでせうが、此處では特に大阪との關係を重視して大阪を知らせると共に神戸を紹介するといふ形になつてゐます。

第十、獅子と武士

一種美文風の風格を備へた文で、何處かに翻譯小説めいた味があります。筋も全然西洋風で壯快な場面に始まつて悲哀な場面に局を結んでゐます。種は獨

逸の讀本で獨逸教會學校出版の讀本の中にある「忠實な獅子」がそれでありませう。

第十一、初夏の夜

初夏の夜のすがすがしい氣持を歌つたもので、何處となく若々しい生きくした感じが充ち満ちてゐます。二聯八句に成るあつさりした詩で、前後二つに分れてゐます。前のは涼しい夕風と若葉の匂、それに美しくきら／＼またゝいてゐる空の星、後のは廣々とした田の面に賑かな蛙の聲、それに谷あひの家と夜の親しみ、そこには初夏の氣持と平和な農村の情趣が盛上つてゐます。

第十二、大連だより

南滿洲の門戸としての大連を紹介しようといふのです。大連は理想的に見ても歴史的に見ても意味のある所で、我が國民に取つては忘れ難い思出の土地であります。此の教材は其の大連を手紙の形に仕組んで、美しい情味の中に浸らせながら讀耽らせようといふのであります。

第十三、一太郎やあい

好い修身的教材です。遙かに卷九の「水兵の母」と好一對です。どちらも健氣な日本婦人の典型です。前課と暗々裏に關係のあることも看逃してはなりません。日露の戦役があゝした大捷を得たのも、みんな斯うした國民の忠勇義烈の賜であります。

第十四、川中島

川中島の合戦は戦争中の花とも謂ふべきもので、戦争も斯うなると立派な藝術です。謙信の疾風迅雷の如き敏捷さに對して、信立の動かざること林の如き沈着さ、謙信の攻撃、信立の防備、いゝ好敵手です。この教材は其の兩雄の性格を狙つて、一の「一騎打」では謙信の武勇を見立て、二の「中なほり」では信立の信義を見立てゝゐます。一では謙信に花を持たせ、二では信立に花を持たせてゐます。

第十五、カヂ屋

實業的教材です。舊讀本にあつた教材を其處此處修正して出してあります。

舊讀本では刀鍛冶が中心になつてゐて、鍛冶屋のお爺さんの前生が刀鍛冶だつたといふところに味を持たせてありました。挿畫も刀鍛冶で注連を張廻らして白丁姿神々しく刀を打つてゐる所が出してありましたが、今度は全然それを修正して、刀鍛冶の部分削除し、鍛冶屋の親子を題材に取つて別個の味を出してゐます。

第十六、航海の話

海事思想を養成する爲の教材です。講演者は郷里出身の船長で、太平丸といふ汽船に乗組んで世界の各地を航行してゐる経験家です。今聘せられて自分の出身校の講堂で、全生徒を集めて自分が實際に経験した海上生活の有様を興味ある態度で論述してゐます。文體は演説體とでもいふべき形で、地を文語で表はし、話を精練された口語で表はしてゐます。ちよつと新聞記事めいた味があります。

第十七、安倍川の義父

立派な修身的教材です。十四頁に亘る長篇、しかも宗教的莊嚴味を帯びた好い教材です。新字を一字も出さないうで練習文の形にしたのは、形式の負擔を軽減して文の讀解に力を專注させようといふ用意です。

第十八、木下藤吉郎

太閤さんの教材も一つ位は無くてはなりません。舊讀本には「豊臣秀吉」と題して生立から晩年までの事が長篇で出してありました。修正讀本にはやはりそれを其儘出してゐますが、こちらでは特に斯うした逸話の一つを捉へて、太閤さんが貧しい百姓の家から身を起して、あれだけの出世をしたのは、彼が忠實勤勉の結果であつたことを感知得させたいといふであります。

第十九、海ノ生物

海中の世界の美しさを物語つて自然に對する親しみを與へようといふのであります。舊讀本にあつたのを少々修正して出したもので、理路明白、簡單にして要を得てゐるのが此の教材の特色です。

第二十、マリーのきてん

歐洲戰爭中の一美談で、種本は戰爭當時に英國で出來た少年愛國者讀本であります。原文が原文ですから戰爭氣分が到る所に盛上つてゐます。一字の新字もなく頗る輕妙な筆つきで、情景が見るやうに描き出されてゐます。隠して下さいと言つて突然斷込んで來た兵士に對して、どうして宜いかどぎまぎしてゐる少女の有様も想像されますし、では水を一杯下さいと言つて注文されて、フ、いとあゝさうだと思ひ付いた當意即妙さ、それが巧く圖にあたつて流石の敵兵も本物と思ひ込んで「こいつ、かなつんぼだな」と言つて出て行つたといつた邊り、眞に息をも吐けない書振です。少女の機智に操られて、目の前にゐる兵士を本物のお婆さんと見誤つて出て行く敵兵、「お前は知つてゐるだらう」と肩に手を掛けられ、「はい、よいお天氣でございます」とト、ンチン、カン、な答をした兵士、そこらに含まれた滑稽味が此の教材の山です。

第二十一、二百十日

文學的教材です。二百十日の當日に空模様を心配してゐる一家の有様が彷彿として眼前に浮び出ます。編者は斯うして農家の厄日とされてゐる二百十日の前後が、農村に取つて如何に重大な意義を有つてゐるかといふことを知らせようと云ふのであります。お父さんの言葉から筆を起して厄日の有様に入つてゐるあたりは、卷六の卷頭にあつた「俵の山」に能く似てゐます。

第二十二、助力

内容に勝つた教材で事件の中に言ふに言へない人情美が溢れてゐます。人間の生活の最大理想は共存共榮にあるといふのが此の詩の生命です。

第二十三 加藤清正

地震加藤です。教材の出處は趣意書に野史とありますが主として清正記に據つてあります。伏見城の大地震を背景に取つて誠忠硬骨な清正の性格を描き出さうといふのであります。場面も大きく、出て来る人物も豪傑揃ひで、頗る大仕掛に出来てゐます。

第二十四、彼岸

長篇の次の短篇です。地震加藤の大物で強い感興を唆つた揚句の息抜かしです。文語でしかも片假名、僅々十一行の短篇の中に正味だけを拾ひ上げたやうな形です。

第二十五、電報

「おとうさん、電報が來ました」といつて子供が電報を差出すと、父は何處から來たのだらうと手に取つて眺めると表に「シン」と書いてある。あゝ信一から來たのだ、では讀んでごらんと子供に讀ませる。電報には「ハナシデキタイツクルヘン」とあつた。父は頷いて「では明日の一番で立たう」と言ふ。斯うした筋で面白く讀ませながら、電報の認め方や電報の規則の一般を知らせようといふのであります。無味乾燥で説明に墮し易い教材を斯うした對話に仕組み、特に地無しの對話體にして讀者に想像の自由を與へてゐる所を味つて見たいものです。

第二十六、注文

前課に連絡させて、商用文として電報と手紙の二つの雛形を示してゐます。どこまでも實用本位で子供には一寸縁遠い教材です。

卷 八

第一、山の秋

秋の真中に始まる讀本の巻頭に「山の秋」をおいた編者の用意を買つて見たいものです。秋の景物を拾つて秋の氣持を現はした所に作意があります。

第二、犬ころ

可愛らしい味のある教材です。天真無我の姿が想像されて言ふに言へない味があります。文の裏に動物愛護といつた考への漾つてゐるのも見逃してはなりません。

第三、競馬

前からあつた教材ですが餘程手が入つてゐます。勝つことばかりを念頭に置かないで、勝敗を超越して相手の危急を救つたあたりに、男らしい武士的氣質が閃いてゐます。運動熱の盛んな今日、暗示の多い教材です。

第四、武將の幼時

武將の幼時と題して三名將の逸話を擧げてゐます。一は「石合戦」、二は「十四歳の時が二度あるか」、三は「雀の子」、題目其の物が既に興味を唆つてゐます。家康の智略、頼宣の豪邁、信綱の忠格、何れも掬すべき逸話です。

第五、揚子江

揚子江の大を物語つたものです。揚子江の大を物語ると共に、一面隣邦支那に親しませようといふのであります。卷七の巻頭に「世界」を出した編者が、今又揚子江を教材に取り入れた趣旨を忖度しなければなりません。

第六、吳鳳

珍らしい良い教材です、宗教的色彩を濃厚に帯びてゐて、人の精神の核心

に觸れるといつた深刻味があります。吳鳳の行爲は人間愛の最高潮に達したもので、其の死の尊さ尊嚴さ、一讀何人も深い感動に唆られます。一死能く傳統的の蕃風を矯正し、其の至誠は遂に蕃族をして神と仰がしめたといつたあたり、所謂身を殺して仁を成したものと云ふべきでありませう。

第七、心と心

前課と内容的に固い聯絡があります。善因善果惡因惡果といつた佛教的氣分も濃厚に滲つてゐます。我先づ愛を以て接すれば彼亦愛を以てそれに應じる。至純な心の接觸は人畜の差別を脱して、互に相抱擁するといつたあたり、かなり大きな暗示が含まれてゐます。

第八、手の働

日常知れ切つたことを巧に纏めた所に筆者の苦心があります。説明文の形を成してゐますが、しかし餘程まで評論的色彩を帯びてゐます。「もし手がなくば」といふ假設に對して「出來ざるべし」といふ推量で結んでゐる所など立派な

論文調をなしてゐます。先づ手近いところから筆を起し、次いで「大工の家を建て、左官の壁を塗り、船頭の舟をこぎ、農夫の田畑を耕すも」と發展させ、更に「筆一本にして美しき繪をゑがき、のみ一ちやうにて見事なるほり物をほりて、人を感じしむるも云々」と手の働の靈妙さを述べてゐるあたり、文脈整然として一段の快味を覺えます。

第九、炭焼

實業的教材ですが一寸詩趣があります。一體趣味から申しますと原始的のものゝ方が面白いので、消防などでもやはり昔風なのが面白くて、現代風の蒸氣ボンブでは趣味がありません。この教材でもさうで、炭を焼く煙既に詩趣があります。遙かに巻頭の「炭を焼く煙」と相應じてゐる所などにも編者の用意が窺はれませう。

第十、朝鮮人蔘

朝鮮を紹介するには好適の教材です。朝鮮特産の人蔘、それが斯んなロマン

チツクな傳説で彩られてゐるところに言ふに言へない興味があります。

第十一、大岡さばき

一も二も俗傳に據つてあります。忠相が明敏果斷、能く人心の機微を穿つて黑白を見定めた逸話は、大岡政談として坊間に持囃されてゐます。歴史的に言つたら如何はしいかも知れませんが、しかし面白い教材です。

第十二、手紙

この教材は二三課先に出てゐる「町の辻」と表裏を成す教材で、内容上深い聯絡があります。小僧淺吉の家は哀れな家庭です。祖母一人、孫一人、おまけに赤貧と來てゐます。斯うした背景の上に乗せて讀んで見ますと、一讀思はずほろりとさせられませう。

第十三、鷺

力の入つた文です。鷺其儘の強味の有る教材です。讀んでゐる中に自づと體に力が充ち満ちて來るやうです。「何所ニ一分ノスキモナク、強ミガ全身ニミチ

ミチテキル」は此の教材其の物を説明してゐるやうです。

第十四、餅つき

水入らずの平和な家庭で田園趣味が濃厚に漾つてゐます。押詰つた年末の目まぐるしいばかり忙しい時期に、斯うした暢んびりした生活は田舎でなければ味へません。田園の生活は生活其の物が既に立派な詩をなしてゐます。

第十五、町の辻

前々課の「手紙」と聯絡教材をなしてゐます。小僧は淺吉で米屋の丁稚、祖母一人孫一人の寂しい境涯です。淺吉は數日前まで祖母の病氣で里に歸つてゐました。斯うした素性が分り人柄がハツキリして來ますと此の詩が一層深刻味を帯びて來ませう。

第十六、看板

いろ／＼な看板を見てそれを分類して説明した形です。平生はあまり注意に上らない看板も、斯う集めて見ますとなか／＼面白いものです。意外なところ

に意外な研究が轉がつてゐるといふことを、それとなく感付かせるのも此の教材の使命の一つでせう。尙此の教材の中には變體假名が十字ばかり繪模様で提出されてゐます。

第十七、塙保己一

盲偉人保己一の逸話を紹介したもので、人間能力の偉大さを暗示し、人間靈性の不思議さを物語つてゐます。人にはそれ／＼の境遇があります。貧もあれば富もあります。強者もあれば弱者もあります。具足圓滿な體の持主もあれば不具不自由な體の持主もあります。これはどうすることも出来ないものです。人は唯其の境遇に安んじ、其の生活の中から新らしい生活を生み出す工夫が肝要です。

此の教材もさうした意味に於て非常に大きな暗示が含まれてゐます。弱者不具者に對する同情も必要でせうが、弱者不具者を尊敬するといふ考へも必要です。弱者であり不具者であつて社會から除け者にされてゐる人達の中にも、斯

うした偉大な人があるといふことは取りもなほさず弱者不具者に對する尊敬を意味してゐるではありませんか。

第十八、アメリカだより

「横濱」で外國貿易の現状を紹介し、「大連」に依つて我が國と密接の關係ある滿洲を紹介し、「揚子江」に依り隣邦支那を紹介した編者は、今又こゝに「アメリカだより」を出して東の友邦アメリカを紹介しようとしてゐます。斯うして我が國と交渉の多い諸外國の事情を知らせると共に、子供の眼を世界的に開かせて大陸氣分にひたらせようといふのであります。

第十九、コロンブスの卵

前課を承けて此處ではアメリカを發見したコロンブスの逸話を紹介してゐます。人は唯外形だけを捉へて批評する弊があります。人のやつた事は何でも氣易いものだと考へる弊があります。サアやつて見よと云はれると困ります。容易な様でなく、それに氣の着かないのが發明です。此教材は其の間の通弊と

でも云ふべき所に突入して、結果だけを擧て相手をビシリと押へてゐる所に言ふに言へない味があります。

第二十、税

國民科的教材です。公民の心得として是非授けておかなければならぬ教材の一つです。卷六の「入營した兄から」で兵役の義務を知らせ、尙又本課で納税の義務を知らせて、こゝに國民としての二大義務を果させることになるのです。兵役・納税、教育は國民の三大義務で、こゝに税を授けて其の一つを紹介して置かうといふのであります。

第二十一、水の力

簡單にして要を得てゐます。含蓄もあり趣味もある好い教材です。引用された御製がビタリと据つて、御製の御趣旨が全文に透徹してゐる所を味つて見なければなりません。柔順で弱い様だが實は偉大な強味が含まれてゐるといふところに此の文の狙ひ所があります。

第二十二、啞の學校

保己一の旨、おとよの啞、斯う並べて見ますと編者の意のある所が窺はれませう。彼は天性の偉器を發揮して偉大な學者となり、これは孤獨の不具から救はれて教育の恩恵に浴して一少女、彼は畏敬すべく是は又哀れむべきもの、教材配置の妙、編者の用意のある所を忖度したいものです。

第二十三、名古屋市

「ゑはがき」で東京を紹介し、「賀茂川」で京都を出し、更に卷七で煙の都として「大阪」を出した編者は今又こゝに「名古屋市」を出してゐます。東京京都大阪でそれら、東京らしい色彩、大阪京都らしい情調を書表はした編者は、此處に名古屋城によつて名古屋を紹介しようとしてゐます。地理的教材ですが歴史的色彩に富んだ教材です。現在の名古屋市としては物足りないかも知れませんが、名古屋城を中心にして歴史味を帯びたいといふ作意から、斯んな記述になつたものだと思ひます。

第二十四、廣瀬中佐

讀本唱歌で親しみのある教材です。歴史的教材になつてゐますが純然たる文學的教材と看做して取扱ひたいものです。内容は血湧き肉躍るといつた壯烈悲壯な話です。存分に讀みひたらせて誠忠無比の中佐の人格と震天動地の戦況とを想起させて見たいものです。

第二十五、胃とからだ

修身的教材で原據はイソップ物語です。世の中には働かないやうでも世の爲人の爲大切な仕事をしてゐる人がある。だから外形から見ただけで皮相な批評を加へてはならないといふのが教材の狙ひどころで、利己的な考は却つて自己が行詰を來すといふ教訓をそれとなく暗示してゐます。

第二十六、分業

前課と内容上密接な關係が保たれてゐます。前課では胃の腑に「世の中といふものは、すべて相持のものです。」といはせ、更に本課では分業の價值を述べ

てから「分業で仕事をする時、誰か一人の手ぎはが悪いと、全體の出來までが悪くなる。やはり世は相持のものである。」と教訓してゐます。「世は相持」といふ思想で兩課がしつかりと結び合はされてゐるところを味つて見たいものです。

第二十七、人を招く手紙

招待文を三つ擧げてゐます。一は誕生祝、二は法事、三は八十八の祝、一は子供同士で、二・三は大人同士の手紙です。題材が生死といふ人生の大問題を狙つてゐるあたりに編者の用意が窺はれませう。

第二十八、乃木大將の幼年時代

歴史的教材です。構想段落の整然たる所眞に本卷掉尾の雄篇です。無人と泣人の笑話めいた所から筆を起して、大將が幼時身體精神共に普通以下の人であつたといふことを叙し、漸次筆を進めてあの大人物に至るまでの経路を叙べたもので、大將が普通以下の心身の持主であつたに拘らず、あんなに大成されたのは全く父君と母君の教育の賜物であるといふ所に、此の教材の狙ひ所があり

ます。

卷 九

第一、今日

今日は過去から未來への進展の道程です。開卷第一の印象として「今日」は如何にも力強い深刻な感じを與へます。

夜の暮が静かに開いて爽快な朝になるといふ。生き／＼した氣持を歌つたもので、今日禮讚です。そこには一日再晨難しと言つた感も閃いてゐて、再び歸らぬ時の流といつた思想が背後に脈打つてゐます。

第二、トラツク島便り

地理的教材です。委任統治になつてゐる南洋、特にトラツク島の有様を知らせようといふのです。國民は太り國の力は伸びました。從來の讀本の「臺灣から樺太へ」は「トラツク島便り」と變りました。日本は確かに大きくなりました。

この大きくなるといふこと、伸びて行くといふこと、これが新日本の象徴なのであります。「トラツク島便り」は舊日本と新日本との劃線を描いたものとも言へませう。

第三、弟橘媛

國史の日本武尊と表裏をなしたところに意味があります。歴史が表面から行つてゐるのに對して、こちらは裏面から行つてゐます。彼が主として知で行かうとしてゐるのに對して、是は情で行かうとしてゐます。内容上では遙かに卷五の熊襲征伐と聯絡があり、國史とは燒津の原の燒打や草薙の劍の由來などゝ聯關してゐます。媛が一身を捨て、尊の危難を救はうとして、逆巻く海の中にお飛び込になつたといふ御事蹟は、我が國民が傳統的に持つてゐる犠牲的精神の發露で御配偶に對する純眞な御熱情の迸りなのであります。

第四、養雞

實業的教材になつてゐますが立派な文學的教材です。主人公は五年生、妹は

二年生といった想定です。朝起きてから學校へ行くまでの時の推移に従つて面白く筆を運んでゐます。全文現在調を使つて事實を讀者の眼前に展開させ、短い文を疊みかけて輕快な好い氣持を與へてゐます。

第五、動物ノ色ト形

理科的教材です。從來の讀本には「動物の體色」と題して文語で出してありましたが、枝尺とりなどの擬態も含まれてゐますので、こちらは「動物ノ色ト形」とし、尙文體も口語にして餘程碎けた書振になつてゐます。説明文としては理想的に出來て、理路明白に説明の歩を進めたあたり、この種の記述として上乘のものと言つて然るべきでありませう。

第六、五代の苦心

立派な修身的教材です。日本には珍らしい美談で、親の一代で出來なかつたことを子が継ぎ、子の一代で出來なかつたことを孫が継ぎ、曾孫が継ぎ、立孫が継いで、たうとう五代二百年の長い月日を費して立派な農學の基礎を確立し

たといふ、殆んど類の無い教材です。教材の出所は趣意書にもあるやうに飯村異氏の「佐藤信淵傳」です。

第七、ナイヤガラ瀧

「世界一」の冒頭が如何にもアメリカ式です。こんな教材を読ませることに依つて島國根性が無くなり、大きい世界觀が出來ます。見るもの聞くもの、總てが島國的箱庭式に出來てゐる我が國民の頭には、時にこんな壯觀雄大な景觀に觸れて氣宇を廣大にする必要があるのであります。文は一寸叙景のやうですが能く吟味しますとやはり説明になつてゐます。ナイヤガラ瀑布の壯大な有様を紹介するといふ立場から、季節を離れ場合を考慮の中に置かないで、どこまでも壯大な景觀を説明するといふ態度になつてゐます。

第八、若葉の山路

練習文の形に成つてゐますが言葉も可なり新しくて讀解に相當骨が折れませう。晴れた初夏の山路を通つて、お使に行つた主人公の少年が新緑滴るばかり

の清々しい山間の情趣に浸つて、その氣持を感興に満ちた筆致で描出した形になつてゐます。子供の生活を背景にして清々しい若葉の香ひ、春蘭のふくらみ、ケロリとした栗鼠、ノロノロと這つて行く青大将、さうした景觀に浸らせ新緑の爽快な氣分を味はせたいといふのであります。

第九、兩將軍の握手

歐洲戰亂中の一挿話でちやうど明治三十七八年戰役の旅順開城と好一對の美談です。勝ち誇つたエンミツヒ將軍が敗軍の將レマン將軍の前に膝を屈したのは何故でせう。人道の光、正義の勝利、そこらが此の教材の狙ひ所なのであります。編者が特に此の教材を次の水師營會見と並べて出して、正義人道に國境なきことを暗示してゐる所を味つて見たいものです。

第十、水師營の會見

舊讀本に出てるた教材で殆んど其儘です。趣意書にも文學的教材と銘が打たれてゐるやうに、一個の史劇としてどこまでも人情の至美を味はせて見たいも

のです。昨日までは戰雲旅順の天地を覆ひ、彼我の打出す砲火は殷々轟々として物凄く、阿鼻叫喚悲壯慘澹の限りを盡してゐたのが、今日は全く靜寂の天地に歸つて、今が今まで敵味方に別れて睨み合つてゐた兩軍の司令官が、互ひに手を取つて談笑したといふ、悲壯と言はうか莊嚴と言はうか、會見其のものが既に立派な詩をなしてゐます。

第十一、物ノ價

物の價はどうして出来るか、物の價の高下は何に依つて起るかといふことを説明したもので「物ノ價アルハ其ノ物が人ノ爲ニ有用ナルト、意ノ如クニ得ラレザルニヨルナリ」「物ノ價ノ高下ハ、主トシテ需用ト供給トノ關係ニヨルナリ」の二つの法則が主想となつてゐます。此の法則を説き明す爲に飲料水や石や馬などが例に取られてゐます。説明に演繹的と歸納的の二つを兼用ひ、一段は歸納的に、二段は演繹的に、三段は一段と二段とで確かめられた法則を繰返し、一段と二段とを前提にして更に歸納した形になつてゐます。

第十二、弟から兄へ

澄るゝばかりの情味の中に、平和な田園生活を描き出したところに言ひ知れぬ味があります。一家の和樂、郷黨の互助、勞働の尊重といったやうなことを、手紙を通してそれとなく感得させようといふのであります。要吉の家は農家で、副業として茶を造り蠶も養つてゐます。家族はお父さんとお母さんと兄弟が三人、兄の一人は海軍の軍人で、もう一人は東京に遊學に出てゐます。そこらの背景を頭に置いて要吉が手紙を書いた動機の如何を忖度させて見たいものです。

第十三、老社長

立派な修身的教材です。老社長の性格も立派に描出されてゐますし、「なあに、もう一度出直すのだ。」といった心意氣も遺憾なく書表はれてゐます。話は四つに分れてゐて冒頭の一段は枕、次の話が二つに分れてゐます。それから最後の一段が結尾で少年の感想となつてゐます。前半も立派な立志談ですがこの教材では後半の立志談に力が入つてゐます。

第十四、麥打

實業的教材ですが立派な文學的教材です。一は一家水入らすの麥打、二は近所隣の人達も交つて賑かな麥打、どちらも楽しい田園生活の一つです。埃だらけになつて働き、勞苦を勞苦とも思はず、却つて家庭和樂の一つでともあるかの如き考でゐるところに言ふに言へない尊さがあります。

第十五、軍艦生活の朝

「入營した兄から」で陸軍を紹介した編者は「軍艦生活の朝」で海軍の日常生活を紹介しようといふのであります。趣意書には文學的教材となつてゐますが立派な國民科的教材です。起床から軍艦旗掲揚、午前五時から午前八時までの間の目のまはるやうな水兵の活動を書表したもので、甲板洗ひのあたりが文の山になつてゐます。

第十六、東京から青森まで

旅行談の形になつてゐます。東北本線で東京を出て青森へ着くまでの間の主

な地理や歴史を配したもので、汽車旅行の愉快さを巧みに對話を挿入して、溢れんばかりの情味の間に叙し去つたところに特色があります。旅行談でも聞かせるつもりで面白く讀ませながら、そのところ／＼で適宜に附説を加へ、沿道各地の有様を知らせると共に旅行の面白味を感得させるやうに仕向けたいものです。

第十七、いもほり

學校の學園で先生と一緒に馬鈴薯を堀つた時の有様を叙したもので、學校は無論田舎の學校です。農園もあれば農具小屋もあります。鍬やシャベルなどの用具もすつかり用意されてゐます。先生と一緒に苗を植付けて、肥料をやつたり手入をしたりして、やつと實が入つたので今日はいよ／＼其の取入れです。前段では堀りかへされてコロ／＼轉け出る馬鈴薯の有様を叙し、後段では其の嬉しさを驚く聲感心する聲と象徴化して示してゐます。天氣の好い學園に學級總出のいもほり、先生も生徒も嬉しさうにピン／＼跳廻つてゐます。

第十八、石安工場

五一ぢいさんと好一對の教材です。

安爺さんは純朴で能く働く爺さんです。爺さんはもう六十の坂を越してゐますがやつぱりコツチリ／＼石を刻んでゐます。生死を超越して唯コツ／＼と自分の理想を刻んでゐます。その樂天的なところ、働くことを楽しみとしてゐるところ、生死を超越してゐるところ、爺さんの生活は立派な詩です。藝術です。

第十九、星の話

夕飯後の楽しい夕涼みに空を仰いでキラ／＼光る星を眺めての話です。話題になつてゐるのは大熊星と小熊星のローマンスで、天文學的に言つたら北斗星を中心にした星の姿です。星の世界と子供の世界、どちらも空想の世界、詩的世界で似通つてゐます。彼は天界に於ける神秘の世界、是は地上に於ける神秘の世界、どちらもロマンチックな好い對照です。

第二十、白馬岳

白馬の雄姿を想像させ大自然の壯觀を思はせようといふのです。物見遊山の箱庭式は一轉して深山幽谷を辿つて山靈に直面しようといふ所謂登山熱は最近各方面に鬱然として勃興しました。この教材は日本アルプスの代表として白馬岳を取り、旅行談の形をかりて白馬登山の壯快さを思はせようといふのであります。

第二十一、初秋

初秋のスツキリした氣持です。時は二百十日過ぎの晴れぐれとした日曜の午前、場所は田舎で、山があり川が流れてゐる広い田圃を見晴した農家の裏畑、主人公は十一二歳の少年、今母と一緒に茄子をもぎに裏畑に出て、そこらを一巡した時の有様です。

田舎の初秋は一入の趣があります。總てが生きくとして歡喜に充ち満ちてゐます。田には稻が實り、裏畑には茄子がなり南瓜が轉がる。井戸端の柿の木には柿が鈴なりになつてゐる。空には赤蜻蛉が飛び、水溜りには蛙が浮いてゐる。

秋は見るもの聞くものゝ總てが詩です。

第二十二、北風號

卷八の「心と心」の具體化です。動物でも愛護すれば斯うも馴付くものたといふことを、文學の力を借りて涙ぐましいばかりに深刻に描き出したもので、一讀思はずホロリとさせられます。そこには戰禍の物凄さがあり。主人を慕ふ軍馬のいたいけなな有様があります。一寸肉弾にでもありさうな題材ですが、原文はブラツグビユーテイで西洋種です。

第二十三、手紙

三つの手紙が収めてありますが内容上にはちつとも聯絡がありません。三つが三つ共獨立した手紙です。一は伯父さんから戴いた御本の御禮、二は子猫を貰ふに就いての問答せの手紙、三は先生の住所を問合せの手紙、三つ共ほんの用件だけに止めたアツサリした手紙です。候文の最初で文學的教材にはなつてゐますが、文の形から言つたら實用本位の手紙といつて然るべきでせう。

第二十四、水兵の母

舊讀本にあつた教材ですが僅か二三の修正を加へただけで殆んど其の儘です。日清戦争が生んだ戦争美談で遙かに「一太郎やあい」と相應じてゐます。彼は日露戦争、是は日清戦争、何れも非常時に於ける國民の敵愾心で、至誠報國の精神の發露です。一太郎の母には純朴至純の愛すべきところがあり、水兵の母にはどことなく武士的で上品なところがあります。彼は野に咲く野菊の面影があり、是は社頭に薰る白梅の趣があります。

第二十五、選挙ノ日

選挙の精神を教へたもので國民科的教材です。立憲國民として必要な選挙の心得を戯曲化して取扱つたもので、眞正面から行つたら堅苦しくなる斯うした教材を面白く構想したことに編者の苦心があります。

卷 十

第一、明治神宮参拜

新讀本として是非無くてはならない教材の一つです。明治神宮は現代人の齊しく敬仰する所で我が國民道德の源泉とも言へませう。教材は東京附近の小學校の兒童が受持教師に引率されて参拜した参拜記の形になつてゐて、直接参拜した兒童の所感を織込んで神宮の莊嚴な有様を紹介してあります。

第二、アレキサンドル大王と醫師フイリツプ

アレキサンドル大王の性格の一面を叙したもので、教材の背後には可なり深い思想が織込まれてゐます。大王がマケドニヤの小國に身を起し、僅か十數年の間に四方の國々を征服して世界統一の大業を成した所以を醫師フイリツプの具體例によつて物語つたといつた形になつてゐます。

人を信ずるの力の強かつたアレクサンドル大王と自己の責任觀に一身を賭した醫師フイリツプ、此の兩人格が互に相接觸して火花の散つたところが此の文の山なのであります。

第三、道ぶしん

青年團員の活動振を道譜請によつて紹介し、尙朝鮮歸の郷黨の先輩を之に配して文に色彩を添へ、其の間それとなく青年團其の物を紹介したところに編者の用意があります。真正面から行つたら無味乾燥に陥り易い斯うした教材を、面白く構想して巧に具體化してゐるところに一段の趣があります。

第四、馬市見物

馬市見物の兄から弟に與へた手紙の形で、内容は馬に對する同情を喚起し、それによつて動物愛護の念を涵養しようといふのであります。涙ぐましいばかりの教材で全篇動物愛護の念によつて統一されてゐるところを味つて見たいものです。

第五、燈臺守の娘

舊讀本にも出てゐた教材ですが好い教材です。前課は動物、此課は人、思想的に美しい連絡が保たれてゐます。

第六、霧

目先を變へて此處では自然美を歌つてゐます。前のは朝、後のは夜、朝は田舎、夜は都會、山里の朝霧の情趣と都市の夕霧の情調とを併せ叙した所に編者の作意が覗はれませう。

第七、パナマ運河

パナマ運河の沿革と其の工事の概要を述べたもので、驚嘆すべき人力の偉大さを知らしめると共に、人間努力の最高潮を示したところに意義があります。

第八、開墾

立派な文學的教材で田園趣味があふれんばかりに盛り上つてゐます。寒天の引締つたキビくした氣持が開墾其の物とシツカリ合つて言ふに言へない情趣があります。前課は人力の最高潮ともいふべき大開墾、此課は一家の小事業、彼は現代文化の粹を集め、是れは頗る原始的な素朴其の儘、趣味は果して何れにありませう。

第九、陶工柿右衛門

名工の苦心と藝術的良心の最高潮とを物語つてゐます。物心一如、創作欲の極度に達した時は自己と作品とは全く融合してしまひます。名工が藝術に其の全生命を打込んで、生活の壓迫も眼中なく、超然として毀譽褒貶の外に立つてゐる崇高な生活は、生活其の物が既に立派な藝術です。宗教です。

第十、銀行

内容に勝つた教材です。銀行の意義——銀行が社會政策上必要なわけ——營業の主目的たる預金貸付——預金すべき理由——定期と當座との利益比較——などを理解させて、經濟的常識を養はうといふのです。全文會話で出來てゐて、仕組は全然劇的です。

第十一、傳書鳩

傳書鳩が勇敢な小傳令使であることを述べ、其の驚嘆すべき靈性の力を叙したもので、此處にも動物愛護の情が漲つてゐます。全文説明になつてゐて、文

理整然一絲紊れず、しかも其の間に印象的の筆致を加味して、少しも重複煩雜の感を起さしめないところに此の教材の特色があります。

第十二、鉢の木

謠曲の鉢の木を現代語化したもので本巻第一の長篇です。原文が原文だけに讀んでゐる間に悠揚迫らざる氣分と、其處に漾ふ音樂的の調子とが感ぜられませう。

第十三、京城の友から

京城に旅行した友達から内地の學友に送つた手紙の形になつてゐます。朝鮮に就いては卷八の「朝鮮人墓」の傳説から導いて、「道ぶしん」に其の片鱗を示し、更に此の教材に及んでゐます。朝鮮の京城を内地の東京や大阪と同様の考で取扱つてゐるところに編者の用意が覗はれませう。

第十四、炭坑

人間の知識は次第に空中を征服して行くと共に、文明は漸次地下にも及んで

行くといふところに大きな意味があります。此の教材は三池炭坑の中の萬田坑の參觀記の形で、地下の作業の困難さを思はせ、其處に働いてゐる坑夫の生活に深い同情を起させたいといふのであります。

文の山は石炭を掘つてゐるところで、此の部分は現寫法により常體の現在調を用ひてゐます。

第十五、輸出入

世界物資流用の利を説き、世界的に膨脹した日本を紹介しようといふのです。文はひきしまつた説明文で第一段は外國貿易の必要を輸入の一方から概説し、第二段はこれが具體例として主な輸入品と其の供給國とを挙げ、第三段では輸出品の主な物と其の對手國、第四段では原料を輸入しそれを精製して更に輸出するものゝ例、第五段は以上を受け輸出入の總額を歴史的に述べて結論としてゐます。

第十六、登校の道

登校の道々の田園の冬を歌つた叙景詩です。調子は七々調になつてゐて三四四三の格律を主調とし、四三五二の格律を入交せてリズムに變化を保つてゐます。七五調のやうな輕快な味はありませんが、何となく落着いた重味のある格調で、冬の日のきびくした氣持とシツ、ク、合つてゐます。

第十七、言ひにくひ言葉

考へさせられる教材で貴い暗示が含まれてゐます。日本人の缺陷とでも云ひませうか、廣く東洋人の通弊とでも申しませうか、兎に角諾否をハツキリしないといふことは非常な大きな缺陷なのであります。此の教材は其處を狙つて教訓の意を寓したもので、「はい」とも「いゝえ」ともつかない生返事をしてゐた爲、のつびきならぬ破目に陥つたといふのが一篇の作意となつてゐます。大體の趣向はスキントン第四リーダーに據つたもので、それを巧に日本化して旨く書きこなしてあります。

第十八、文天祥

教材の内容と其の展開

漢文調を用ひて内容と調和を圖つてゐます。史記か十八史略を讀むやうな味がして剛健な引締つた氣持でグン／＼押付けられるやうな氣がします。彼が「士は危きを見て命を致す」といつた信念に殉じ、白刃の下に顔色を動かさず、威武も屈すること能はず富貴も淫すること能はざる大丈夫の眞價を發揮したところ、文天祥の一生は確かに國家的道念の最頂點を示したものと云へませう。

第十九、温室の中

文天祥の純忠至誠を以て一貫した悲壯な生涯を紹介し、彼が境涯に悲憤の涙をそゞぎ慷慨の血を沸かせた揚句に、心機一轉これは又美しい温室の中です。純文學的の教材で空内の暖かさと咲き誇つた花の艶麗さと兄妹の友情とが三つ融け合つて美しい綾を織り出してゐます。温室の中の温かさをあらはす爲に室外の寒い世界を描き、室内の花の艶麗さを引立てる爲に室外の荒寥な冬枯の光景を描いたあたり、寒と温、艶麗と荒涼、兩々相應じて對照の妙を極めてゐます。

第二十、手紙

誕生の喜びと他界の愁弔とを對照して人生哀樂の二面を考へさせた所に配材の用意があります。一は女性的、二は男性的、前のは親戚の間柄、後のは友人關係、前には骨肉の情があり後には友情のこまやかさがあります。

第二十一、日光山

日光の人工美と自然美との映發を歌つたもので、八七調の莊重さが内容とシ、ツクリ、調和してゐます。名詞止の句法は語調に強味を添へ、四四四三の格律は氣持のよいリズムを織出して讀めども盡きない風韻と妙趣があります。

第二十二、捕鯨船

全篇血湧き肉躍るといつた壯烈な捕鯨の光景で、叙述もそれに相應しく出來てゐます。「鯨・鯨」「命中、々々」「萬歳、々々」の三語が適當な距離に配置されて、文に躍動と生氣を添へたあたり、可なり精練された筆致です。炭坑では地下の世界を描いて狭い暗黒な坑内に汗みどろになつて働いてゐる坑夫の活動

振を紹介し、此處では又海の寶庫を開くべく、晴れやかな廣々とした海上に活躍してゐる漁夫の壯快な場面を描いてゐます。地下の世界といひ、海上の世界といひ、何れも國の發展に資し人間活動の意氣を鼓舞する所は同じです。そこから選材の苦心の存するところを村度しなければなりません。

第二十三、太宰府まうで

神社參拜記の新型です。史蹟としての太宰府を紹介し菅公の誠忠を回顧させようといふのです。文は實地太宰府の史蹟を踏んで、其の情調を基にして其の目に觸れ耳にした所を筆にした形で、前半は神社が中心となり後半は史蹟が中心となつてゐます。

第二十四、たしかな保證

舊讀本にも出てゐた教材ですが好い教材です。人の本當の値打は學歷でもなければ知名の人の紹介でもない。其の人の品格であり人格であるといふ教訓が中心で、それを面白く戯曲化したところに言ひ知れぬ味があります。

第二十五、平和なる村

理想の村を假想して或る一人の子供に村の現状や青年團の近況などを物語らせるといふ形になつてゐます。舊讀本に出てゐた教材を平易に書き直したもので、無趣味な説明を避けてどこまでも兒童本位に基調をおいたところに新教材の特色があります。起筆の「私の村には」の「私」に大きな意義があります。

第二十六、進水式

世界第一の堅艦として列強の注目の的となつてゐる戦艦陸奥が海に浮ぶ刹那の莊嚴さを描いたもので、言々句句珠玉をつらねたやうに一篇無韻の詩をなしてゐます。サツと切るとスル、と滑つて、凄まじい勢で海の中へ滑込む。その瞬間の莊嚴さ、本當にアツと言ふ間もない程です。緊索を切るまでの緊張した數分間、緊索を切つてからの秒一秒、静な緊張した場面から漸次活動の壯觀な場面に移る。静と動とが織りなした氣分情調、それが此の教材の生命なのであります。

第二十七、兒島高德

舊讀本に出てゐた教材ですが餘程平易に書直されてゐます。本卷は卷頭に「明治神宮参拜」をおき、明治天皇の御偉徳に對して深い感銘を與へ、卷末に忠臣の典型たる兒島高德の事蹟を挙げ一卷を力強く結んでゐます。中間に宋の忠臣文天祥を配して、至誠純忠の誠は古今東西を通じて讃仰に値するといふ貴い思想を暗示してゐます。一卷の精神のあるところ、配材の用意の存するところを忖度して、教材を生かして取扱ふ工夫が大切でせう。

卷 十一

第一課 太陽

太陽の實體を明かにし宇宙の廣大さに驚異の眼をみはらせると共に、宇宙觀、人生觀の芽生を培はうといふのであります。最上學年に提供する讀本の卷頭第一に太陽を配した編者の用意を忖度したいものです。

第二課 孔子

大聖孔子の面目を紹介したもので、前半に先づザツと其の經歷を叙べ、後半には論語や中庸の中から割合に分り易い數句の抜いて、其の主義其の人生觀の片鱗を覗はせてゐます。題材が題材で可なり難解の部分も少くありませんが、しかし力の込めた讀みごたへのする教材です。

第三課 上海

支那は世界の寶庫として、歐米各國は言ふに及ばず我が日本に於ても、商品の捌口として將又豊富な天産の供給地として注目怠らない所であります。上海は其の漏斗とも言ふべきところで、此處から支那の生産物は世界各國の市場に流れ出で、世界各國の物資は此處から支那の各地へ流れ込むといふ重要な位置を占めてゐます。しかも其の上海が支那にして支那にあらず、世界各國の國民が集まつて自由に商業貿易を行ひ、市民は其處に自治制を布いて何等他の束縛を受けないで自由の生活を營んでゐます。此の教材はそこらを狙つて上海の上